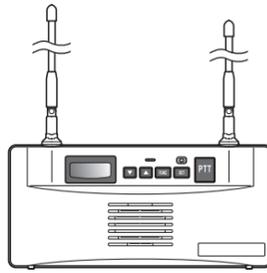


ALINCO

PS1009
FNFE-NH

特定小電力無線中継器/特定小電力トランシーバー
(総務省技術基準適合品)

DJ-P113R 取扱説明書



アルインコの製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本機は免許、資格不要の特定小電力無線機器です。日本国内なら誰でも用途を問わず、各種通信にお使いいただけます。本機の性能を十分に発揮させるために、この取扱説明書を最後までお読みいただくようお願いいたします。アフターサービスなどについても記載していますので、この取扱説明書は必ず保管してください。また補足シートや正誤表などが入っている場合は取扱説明書と合わせて保管してください。

アルインコ株式会社 電子事業部

東京支店 〒103-0027 東京都中央区日本橋2丁目3番4号 日本橋プラザビル14階 TEL.03-3278-5888
名古屋支店 〒460-0002 名古屋市中区丸の内1丁目10番19号 サンエイビル4階 TEL.052-212-0541
大阪支店 〒541-0043 大阪府中央区高麗橋4丁目4番9号 淀屋橋ダイビル13階 TEL.06-7636-2361
福岡営業所 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2丁目13番34号 エコービル2階 TEL.092-473-8034

アフターサービスに関するお問い合わせは
お買い上げの販売店または、フリーダイヤル ☎ 0120-464-007
全国どこからでも無料で、サービス窓口につながります
受付時間/10:00～17:00月曜～金曜(祝祭日及び12:00～13:00は除きます)
ホームページ <https://www.alinco.co.jp/> >事業案内>電子事業部 をご覧ください。

Copyright Alinco, Inc. Printed in Japan

使用前のご注意

別紙の「安全上のご注意」を必ずお読みください。本書に記載していない重要な安全上、使用上の注意点と免責事項についてご説明しています。

■ **ご使用環境**
高温、多湿、直射日光が当たり続けるところは避けてご使用ください。本機は防塵防水ではありません。濡れた手や水回りでの使用時は十分ご注意ください。厨房などの油気も表面劣化や故障の原因となります。

■ **分解しないで**
特定小電力無線機器の改造、変更は法律で禁止されています。分解したり内部を開けたりすることは絶対にしないでください。

■ **使用禁止場所**
本機は総務省技術基準適合品ですが、使用場所によっては思わぬ電波障害を引き起こすことがあります。次のような場所では使用しないでください。(航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、中継局周辺)

本機は日本国内専用モデルです。海外では使用できません。
This product is intended for use only in Japan.

■ **通信距離の目安**
中継器を介しての通話距離は同じ長さのアンテナの無線機同士の交互通話と比較すると下記のようになります。また距離だけでなく不感エリアの解消に効果的です。
・半復信中継：距離で2倍程度
・連結中継：最多4台設置して直線方向に8倍程度
無線機(トランシーバー)として通話できる距離は周囲の状況や取り付け方によって大きく異なります。
・河川敷など障害物がない平地、見通しのよい道：500m～1km程度
・市街地や住宅街など障害物が多い所：200m程度
・店舗などの建屋内：100m程度

■ **注意** トンネルのような閉鎖空間ではUHF電波伝搬の特性により近距離でも通話できないことがあります。

■ **グループトーク機能の相性**
他社製や弊社の旧製品とグループトーク設定すると、通話できないことがあります。使用するトーン信号の精度に関する相性で異常ではありません。2～37番の間でグループ番号を変えてみてください。

特定小電力の通信制限について

特定小電力無線機器の通信に関する制限事項を説明します。

■ **3分制限(3分以上は連続で送信できません)**……………
10秒前に警告音が鳴ります。通信時間が合計3分になると自動的に送信は停止します。

■ **注意** 3分の通信時間制限により自動的に通信が停止したあとは、約2秒間たないと送信できません。

キャリアセンス(受信中は送信できません)……………

一定の強さ以上の信号を受信しているときはPTTキーを押しても送信できません。受信中にPTTキーを押すとアラーム音が鳴り、送信できないことをお知らせします。

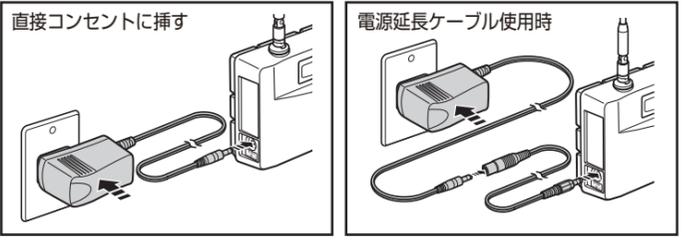
付属品の取り付け方

- 付属品をご確認ください。
- ブラケット
 - ACアダプター(EDC-122)
 - オプションハンガー (FM0547)
 - 取扱説明書 : 2枚
 - タッピングネジ : 4個 (M3×16mm)
 - 電源延長ケーブル : 5m
 - 取付けネジ : 2個 (M3×3mm)
 - 保証書

■ **注意** 保証書にご購入の日付が記載されていないときは領収書やレシートを保証書と一しょに保管してください。ご購入日が証明できる書類がないと保証サービスは無効となりますのでご注意ください。

ACアダプターの取り付け……………

付属のACアダプターを接続して電源供給します。また付属の電源延長ケーブルを使用して線長を5m延ばすことができます。



オプションハンガーの取り付け……………

本機を壁掛けて別売マイクを接続するとき、背面の取付け部を図のように取付けネジで固定します。マイク背面のクリップをハンガーにはさんで留めることができます。下記のブラケット使用時でもお使いになります。

■ **注意** 標準付属品以外のネジを使用すると本機が破損します。規格以外のネジは使用しないでください。

ブラケット(立て掛け)の取付け/取外し……………

● **ブラケットの取付け方**
①ブラケットの金属がある面を上にして図のように背面のスリットに合わせます。

②わずかに斜め上方向に向かって「カチッ」と音がして止まるまでブラケットを押し込みます。

③安定した水平の台に置きキー操作して、がたつきがないか確認します。正しく止まっていないとブラケットが外れて転倒し、故障の原因となります。

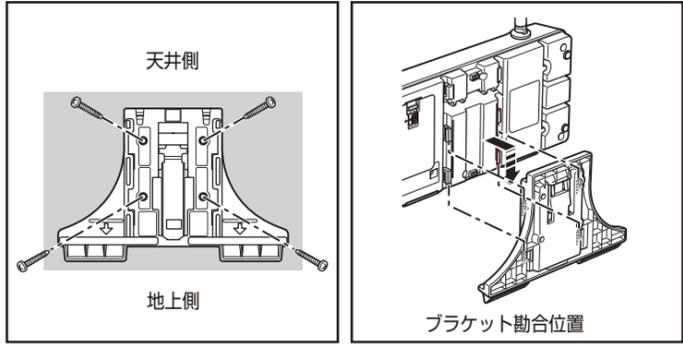
● **ブラケットの取外し方**
本機をしっかり手で持って、ブラケットを左右に動かすように軽く振ると簡単に外れます。まっすぐ引き抜こうとすると勢い余って本機やブラケットを落下させる危険があります。



ブラケット(壁掛け)の取付け……………

- すべての設定が終わってから作業してください。
- ①装着場所の壁面にタッピングネジが使用できることを確認します。
 - ②あらかじめ下図を参考に卓上でブラケットと本機の勘合を確認します。ブラケットを本体上方向にスライドすると「カチッ」と大きな音がして固定され、下側の金属片を押さえて反対方向に引くと外れます。
 - ③金属が見えるようにして位置を決め、プラスドライバー2番で付属のタッピングネジ4本でブラケットを壁に取付けます。
 - ④ブラケットに本機を当て、下方向に「カチッ」と音がするまでスライドさせて固定します。しっかりと固定されたことを念入りに確認してください。
 - ⑤外すときは下側の金属片を壁方向に押しながら本機を上にもスライドさせます。

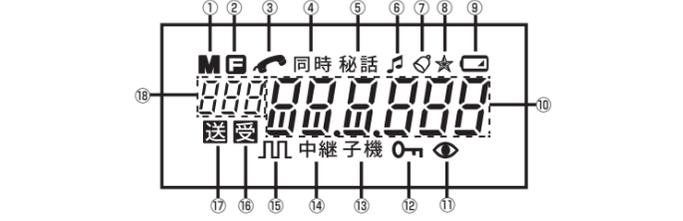
■ **注意** ・ブラケットの設置不良に起因する落下は製品保証の対象外です。事故や故障の原因にならないよう、十分にご注意ください。付属のネジ以外の使用も自己責任です。径や長さが違うと本機やブラケットの故障の原因となります。取付けにかかる費用は製品に含まれません。
・ブラケットは天地無用で設置し、天井には設置しないでください。本機が落下するおそれがあります。



機能と特徴

- ・通話エリアを広げる半復信中継器や連結中継器の通話が可能
- ・無線機(トランシーバー)としての運用も可能
- ・停電時に電源供給が停止した場合、バッテリーパック(別売)で一時的な運用も可能

ディスプレイ



説明	
①	未使用
②	FUNCキーを押すと点灯します
③	未使用
④	同時通話モード時に点灯します
⑤	秘話機能設定時に点灯します
⑥	コンパnder機能設定時に点灯します
⑦	ベル機能設定時に点灯します
⑧	VOX設定時に点灯します
⑨	バッテリーパック使用時や充電時に点灯、点滅します
⑩	チャンネルやグループ番号、セットモード項目を表示します
⑪	未使用
⑫	キーロック中に点灯します
⑬	子機として使用する各モード時に点灯します
⑭	中継器または中継器機の各モード時に点灯します
⑮	中継器リモコンモード時に点灯します
⑯	受信中に点灯します
⑰	送信中に点灯します
⑱	通話モード番号、周波数帯を表示します

※未使用：リセットの全点灯時に表示されますが、通常使用では表示されません。

充電方法 ※オプション品：EBP-60が必要です

別売のバッテリーパックを停電時の非常用電源としてお使いになれます。
● **バッテリーパック：EBP-60 (Li-ion 3.7V/1200mAh)**

① ロックレバーを矢印方向へスライドさせて電池カバーを手前に引いて外します。

② バッテリーパックの突起部を上にしてケース内に入れ、軽く下方向に押し込みながら奥に押し止めます。その後電池カバーを元に戻します。

③ 付属のACアダプターを図のように電源端子とAC100Vコンセントへ接続すると充電が始まり、バッテリーマークが点滅します。

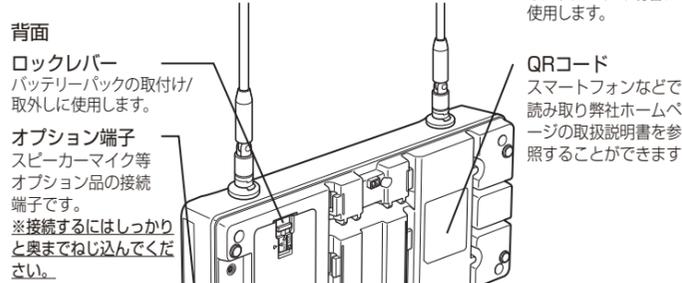
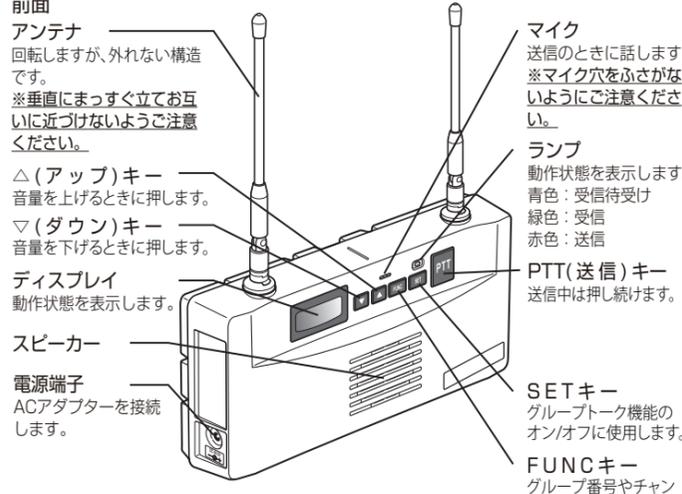
④ 充電が完了するとバッテリーマークが点灯します。

■ **注意** 本機を長時間使用しないときはACアダプターとバッテリーパックを外して保管してください。保管方法は別紙の「安全上のご注意」をお読みください。

[参考]
災害時などでAC電源の復旧の遅れが運用の支障になるときはバッテリーパックの予備をご用意ください。
◆ **バッテリーパック運用時間の目安** ◆
半復信中継：10時間
連結中継：6時間

× **メモ** 空のリチウムイオンバッテリーを満充電するのに要する時間は約3時間です。充電は周囲温度が0℃～+45℃の屋内でおこなってください。清掃と点検をしても充電できないときは販売店が弊社サービスセンターにご相談ください。

各部と名前とはたらき



前面
アンテナ 回転しますが、外れない構造です。
※垂直にまっすぐ立てお互いに近づけないようご注意ください。
マイク 送信のときに話します。※マイク穴をふさがないようにご注意ください。
ランプ 動作状態を表示します。青色：受信待受け 緑色：受信 赤色：送信
△(アップ)キー 音量を上げる時に押します。
▽(ダウン)キー 音量を下げる時に押します。
PTT(送信)キー 送信中は押し続けます。
ディスプレイ 動作状態を表示します。
スピーカー

背面
ロックレバー バッテリーパックの取付け/取外しに使用します。
QRコード スマートフォンなどで読み取り弊社ホームページの取扱説明書を参照することができます。
オプション端子 スピーカーマイク等オプション品の接続端子です。※接続するにはしっかりと奥までねじ込んでください。

SETキー グループトーク機能のオン/オフに使用します。

FUNCキー グループ番号やチャンネルグループの切替に使用します。

DJ-P113R セットモードについて

DJ-P113R 特定小電力中継器は、各種機能を用途に合わせてより使いやすくするためにカスタマイズすることができます。本書では製品に付属の取扱説明書には敢えて記載していない、中継器・無線機の基本設定の詳細をご説明します。

セットモードの操作

- ・キーロックがかかっている場合はかけたときと同じ操作で解除（通常の簡易ロックはFUNC長押し）します。
- ・[FUNC]キーを押したまま[SET]キーを押すとローマ字表示が出て、[SET]キーを押すごとにメニュー項目が切り替わります。ローマ字表示が変わったら指を離しても構いません。FUNCキーだけを必要以上に長く押し続けているとキーロックが掛かるのでご注意ください。（同じ長押しで解除できます）
- ・[▽][△]キーでメニュー内の設定値を選択します。
- ・[SET]キーを押すと次のメニュー、[FUNC]キーを押すと前のメニューが選べます。
- ・設定が済んだら[PTT]キーを押します。運用画面に戻ります。機能によってはオン状態を示すアイコンが表示されます。

中継器セットモード一覧

中継器モード(通話モードr1~r2)時にカスタマイズできる項目です。

No.	機能	セットモード	選択項目	初期値
1	中継親機チャンネル周波数帯	b rPt-CH	b/A	b
2	中継アラーム	oFF ALm	on/oFF	oFF
3	中継ハングアップ	0 HunGuP	0/05/1/2	0
4	中継自動接続手順	on2 Auto	oFF/on1/on2	on2
5	連結中継アクセス速度	noL LnK-SP	noL/FSt	noL
6	連結中継ビーコン時間	10 LnK-bc	oFF/5~60(秒)	10

無線機セットモード一覧

無線機モード(通話モード1~8)時にカスタマイズできる項目です。

No.	機能	セットモード	選択項目	初期値
1	中継子機チャンネル周波数帯	A Unt-CH	A/b	A
2	コンパクター	At ComPnd	At/on/oFF	At
3	秘話	oFF ScrbLE	on/oFF	oFF
4	ベル	oFF bEEL	on/oFF	oFF
5	ランプ	5 LAmP	oFF/5/on	5
6	LED	on LEd	on/oFF	on
7	PTT ホールド	At PttHLd	At/oFF/on	At
8	送信出力	Pow-At	At/Hi/Lo	At
9	VOX	oFF vo	oFF/Lo/Hi	oFF
10	操作音量	3 Sd-voL	0~5	3
11	サウンド	bp Sound	oFF/bp/Gdc/ALL	bp
12	エンドピー	oFF EndP	oFF/on/PP	oFF
13	PTT オフ	on Ptt	on/oFF	on
14	コールバック	oFF CALLb	on/oFF	oFF
15	SET キー割り当て	ACH SEt-bt	ACH/bCH/EG/Scn	ACH
16	外部音量変更	EvoL-L	L/H	L

※ 次ページの文中のローマ字はディスプレイの表示、「設定値」は変更や設定ができる内容、「初期値」は出荷時の設定です。

中継器セットモード

1: 中継親機チャンネル周波数帯「rPt-CH」

設定値 b / A (初期値 b)

半複信中継器(通話モード r1)のときに送受信する周波数帯を入れ替えます。無線のことをよく知る管理者が、特定の目的をもって変更するためのものです。弊社製の中継器、トランシーバーを通常設定でお使いになるときは変更しないでください。標準で自動的に適切な組み合わせになります。弊社製品の中にはこの変更に対応できない機種もあります。

Aに変更すると半複信中継器のとき、ディスプレイ左上の「r1b」表示が「r1A」表示になります。使用する子機の周波数帯設定は全てb側にします。あまり必要性が無いので、弊社製の機種の多くはこの変更に対応させていません。

2: 中継アラーム「ALm」

設定値 off / on (初期値 off)

半複信中継器(通話モード r1)で中継動作の終了をアラーム音でお知らせします。アラーム音が鳴っている間に信号を受信すると中継動作を継続します。中継器が初期状態に戻るまでの時間が長くなり、通話がスムーズに感じられる反面、音が煩わしく感じられることもあり、実験してから好みに合わせて設定してください。

3: 中継ハングアップ「HunGuP」

設定値 0 / 0.5 / 1 / 2 秒 (初期値 0)

半複信中継器(通話モード r1)で受信信号が途切れても一定時間送信を継続する機能です。中継器が初期状態に戻るまでの時間が長くなり、スムーズに感じられることがあります。実験してから好みに合わせて設定してください。

4: 中継自動接続手順「Auto」

設定値 off / on1 / on2 (初期値 on2)

半複信中継器(通話モード r1)、半複信中継子機(通話モード 5)で中継動作自動接続手順 (Auto Kerchunk) を解除する機能です。接続タイミングの異なる旧製品や他社製中継器へのアクセスに有効な場合があります。通常は初期状態の「on2」でお使いください。

5: 連結中継アクセス速度「LnK-SP」

設定値 noL / FSt (初期値 noL)

※連結中継に使用するすべての中継器と子機を同じ設定値 にしてください。

連結中継器(通話モード r2)、連結中継子機(通話モード 6)で連結中継の通話開始(応答)のときのアクセス速度を変更できます。初期値の「noL(通常)」は通信精度を優先するためアクセスに時間がかかり、長めの頭切れが発生します。「FSt(高速)」に切り替えると通信速度を優先するようになり、この頭切れを緩和することができます。ただし、別の電波やノイズなどからの干渉を受けやすくなり、混信の多い環境では最寄りの中継器を誤認することがあります。実際の使用環境でしばらくテスト運用して、使いやすいほうをお選びください。

6: 連結中継ビーコン時間「LnK-bc」

設定値 off / 5~60 秒 (初期値 10 秒)

【間隔設定】

無線連結中継器は、子機に最寄りの中継器を判定させるのに、10秒ごとに1回、約1秒間ビーコン(目印の信号)を送信します。そのビーコンを送信しているときに通話が始めるとキャリアセンスが働き、しばらく通話できないことから通話の「頭切れ」が発生します。そのビーコン送信の間隔を長くすると頭切れの発生頻度を少なくできますが、子機が最寄りの中継器を探しだす時間も長くなります。逆にビーコン間隔を短くすると中継器を探しだす時間は速くなりますが、頭切れの発生頻度が多くなってしまいます。

使用者の通話頻度や移動頻度にあわせて調整してください。

【固定アクセス】

例えばすべてのユーザーに最寄りの中継器が決まっている、他の中継器にはめったにアクセスする必要がない（ユーザーが中継機の間を移動することがほとんどない）環境では、最寄りの中継器を自動で探す必要がありません。手動で中継器を選ぶと、前述のような頭切れが無く、アクセス速度の改善が得られ、使い勝手が向上します。

連結中継器でこの項目を「OFF」にしたあと、子機の中継器自動スキャン設定を OFF にして最寄りの中継器番号に合わせます。DJ-P113R では[SET]キーを 1 回押すと、ディスプレイの「LnK」とチャンネルグループの間の点滅している「.(ドット)」が点灯に変わります。その状態で[SET]キーを押しながら[▽]または[△]キーを押して中継器の番号 1~4 を選びます。移動したときは再度[SET]キーを押しながら[▽]または[△]キーを押して、そのエリアに最寄りの中継器の番号を手動で選びます。

※連結中継に使用するすべての中継器と子機を同じ設定値にしてください。

※連結中継器子機はバッテリーセーブを設定していても、ビーコン間隔時間によってバッテリーの減り方が変わります。ビーコン間隔時間が長いとバッテリーの消耗が少なく、短いと多くなります。ビーコン時間を 5 秒、またはビーコン機能を OFF にした場合、バッテリーセーブが働かないためバッテリーの減りが一番早くなります。

無線機セットモード

1: 中継子機チャンネル周波数帯「Unt-CH」

設定値 A / b (初期値 A)

半複信中継器(通話モード r1)のときに送受信する周波数帯を入れ替えます。無線のことをよく知る管理者が、特定の目的をもって変更するためのものです。弊社製の中継器、トランシーバーを通常設定でお使いになるときは変更しないでください。標準で自動的に適切な組み合わせになります。弊社製品の中にはこの変更に対応できない機種もあります。

b に変更すると半複信中継器のとき、ディスプレイ左上の「5A」表示が「5b」表示になります。使用する中継器の周波数帯設定は A 側にします。あまり必要性が無いので、弊社製のトランシーバーの多くはこの変更に対応させていません。

2: コンパンダー機能「CmP」

設定値 At / oFF / on (初期値 At) ※ON 時のアイコン:「♪」

コンパンダー機能を ON に設定すると、通話中、音声が無いときに「サー」と聞こえるかすかなバックノイズを低減することができます。

※コンパンダー機能のないトランシーバーと通話する場合には必ず OFF にしてください。逆に音質が悪くなる場合があります。

※他社製の特定小電力トランシーバーでもコンパンダー対応機であれば ON でお使いになれます。

※At (オート設定) は、3 者同時通話(通話モード 3)にするとコンパンダーが自動的に動作します。弊社製 3 者同時通話搭載機 (DJ-P300、DJ-PHM20) の初期設定と同じです。

※4 者同時通話(通話モード 4)では、原理上コンパンダーが必須のため自動で、設定オフは反映されません。

※中継通話で子機のコンパンダーを ON にしていた場合、中継器のコンパンダーは OFF でも子機間の通話は問題ありませんが、DJ-P113R を「割り込み送信」させるようなときは音質が悪くなるため、子機と本機の中継時のコンパンダー設定は同じにしてください。

3: 秘話機能「ScrbLE」

設定値 oFF / on (初期値 oFF) ※ON 時の表示:「秘話」

ONにすると、設定していないトランシーバーで受信したときに「モガモガ」と濁った音になり、通話内容が聴き取れなくなります。同じ機能(スクランブルとも言います)を搭載した弊社製トランシーバーであれば、機種が違って通話できます。

※本機能のセキュリティレベルは非常に低いものです。秘密の通信に使えるレベルのものではありません。秘話設定の声に違和感があるときは、拡張セットモードで秘話周波数設定が変更されている可能性があります。拡張セットモードの説明は本書と同じダウンロードコーナーでご覧になれます。

※弊社の旧機種や他社製品の秘話と混用した時は通話内容が聞き取りづらくなったり使えなくなったりすることがあります。

※中継通話、グループトークでもお使いになれますが、音質が変わることがあります。

※中継通話で子機の秘話をONにしていた場合、中継機の秘話設定はOFFでも子機間の通話は問題ありませんが、DJ-P113Rを「割り込み送信」させるようなときは音質が悪くなることもあるため、子機と本機の中継時の秘話設定は同じにしてください。

4: ベル機能「bELL」

設定値 OFF / ON (初期値 OFF) ※ON時のアイコン:「

呼び出されたことをベルアイコン表示とベル音でお知らせします。

※着信すると10秒間ベル音が鳴ります。何かキー操作をすると止まります。キー操作するまでベルアイコンが点滅して、着信があったことをお知らせします。

※一度お知らせしたら、待ち受け状態が約10秒以上続くまで動作しません。(通話中、受信のたびにベルがいちいち鳴るとうるさいためです。)

※グループトーク設定時は、グループ番号が合わない信号を受信しても動作しません。

5: 液晶ランプ機能「LAmP」

設定値 OFF / 5秒 / ON (初期値 5秒)

液晶ディスプレイの照明を点灯させる機能です。初期状態では「5」秒に設定されており、キー操作([PTT]キー以外)をすると自動的に5秒間照明が点灯します。

※ディスプレイ照明をON(常時点灯)に設定すると、オプションバッテリー使用時、電池の減りがとても早くなります。ACアダプター使用時以外はONにしないでください。

6: LEDランプ機能「LEd」

設定値 OFF / ON (初期値 ON)

動作状態を表示するLEDランプ(青色:待ち受け、緑色:受信、赤色:送信)のON/OFFを選択できます。無線機と中継器モードすべてに反映されます。

※液晶ランプと違い明るさを抑えているため、ONに設定していても電池の減り方にあまり影響はありませんが、OFFにするとわずかですが電池の持ちは良くなります。

※一旦設定が済んだら動作状況を見る必要が無い中継器モードではオフにしても良いですが、トランシーバーとして使うときや、設定を変更するときは点灯するほうが操作性は良くなります。

7: PTT ホールド機能「PtthLd」

設定値 OFF / ON / At (初期値 At)

[PTT]キーを一度押すと送信状態を保持、もう一度[PTT]キーを押すと受信状態になります。送信中[PTT]キーを押さなくて良いハンズフリー状態にできます。一部のイヤホンマイク・ヘッドセット系アクセサリで[PTT]キーロック機能が無いものをお使いになるときにロック代わりに使うこともできます。

※初期値の At（オート設定）では、同時通話（通話モード 2）、3 者同時通話（通話モード 3）、4 者同時通話（通話モード 4）で PTT ホールドが自動的に ON になります。別売マイクの PTT キーロック（ボタンをスライドして固定）を使うと、そちらの PTT 操作を優先します。

※PTT ホールド機能は一部のオプションマイクではお使いになれません。取扱説明書のオプション一覧表をご覧ください。

8: 送信出力設定「PwL」

設定値 Lo / Hi / At（初期値 At）※Lo 時のアイコン：「.（ドット）」マーク

送信出力を変更できます。

Hi : 10mW 出力

通常の設定です。理由が無い限り変えないでください。設定を変えてもバッテリーの持ちは大きく変わりません。

Lo : 1mW 出力

b12~b29 チャンネルでは 3 分タイムアウトの制限を受けず、連続送信ができるようになります。ガイドシステムのような送信し続ける必要が有る用途向けですが、通話距離は数十メートル程度まで狭くなります。他人に通話を聞かれるリスクが低くなるので、常に至近距離で通話するときにもメリットがあります。

※At（オート設定）では、同時通話（通話モード 2）の b12~b29 チャンネルに設定すると自動的に 1mW 出力になり、3 分タイムアウトの制限を受けずに通話できます。3 者同時通話（通話モード 3）、4 者同時通話（通話モード 4）も b12~b29 チャンネルを使用しているため、どのチャンネルグループを選んでも自動的に 1mW 出力になり、3 分タイムアウトの制限を受けずに通話できます。

9: VOX 機能「vo」

設定値 oFF / Lo / Hi（初期値 oFF）※ON 時のアイコン：「☆」

「話すとき送信、黙ると受信」のハンズフリー通話ができます。

Lo : VOX 感度 小（大きめの声でないと送信しません。周りがうるさく、黙っていても送信してしまうようなときにお試しください）

Hi : VOX 感度 大（小さめの声でも送信します。周りが比較的静かなときはこちらをお試しください）

※弊社純正品でも一部のオプションマイクは対応しません。取扱説明書のオプション一覧表をご覧ください。

※VOX 感度を「Lo」に設定しても送信してしまうような騒音の大きい場所では VOX 機能はお使いになれません。

※声を感知してから送信を始めるまでに多少時間がかかるため、音声の始めが途切れて聞こえる場合があります。「了解です、〜〜〜」「はい、〜〜〜」など、用件に入るまでに頭切れしても差し支えない言葉を挟んで話し始めると通話しやすくなります。

10: 操作音量「Sd-vol」

設定値 0 ~ 5（初期値 3）

本体から鳴る操作音の音量を変更することができます。数値を大きくすると音量が大きくなり、「0」に設定するとすべての操作音（キー操作音、各種アラーム音、ベル音など）が鳴らなくなります。

※イヤホンを使用した状態でビープ音量を 5 に設定すると、大きな音で耳を痛める可能性がありますのでご注意ください。

11: サウンド「Sound」

設定値 oFF / bP / Gdc / ALL（初期値 bP）

本体から鳴る操作音をビープ音やガイダンス音声（設定内容や状態を音声でお知らせ）に変更することができます。

- oFF : 操作音は鳴りません
bP : 操作音がビーブ音になります。
Gdc : 操作音がガイダンス音声になります。
ALL : 操作音がビーブ音とガイダンス音声になります。

12: エンドピー機能「EndP」

設定値 oFF / on / PP (初期値 oFF)

エンドピーは送信が終わったことをビーブ音で相手に伝える機能です。受信信号の強度(レベル)に合わせてエンドピーを鳴らす「エンドピピ」機能はアルインコの特許で、テールノイズキャンセラーまたはグループトークを設定した弊社製トランシーバーからの信号のみ動作を保証しています。

ON : エンドピー

PTT キーを離れたときに「ピッ」と鳴って送信が終わったことを相手に伝えます。「エンドピー」は送信側で鳴るので、他人に音を聞かせたくないときは自分の設定をオフにします。

PP : エンドピピ

受信終了時に、強いレベルの信号を受信したときは「ピッ」、少し弱いレベルの信号を受信したときは「ピピッ」、非常に弱いレベルの信号を受信したときは「ピピピッ」と鳴ります。「エンドピピ」は受信側で鳴るので、自分がピピ音を聞きたくないときは設定をオフにします。

※この設定は連結中継には反映されません。連結中継時のアクセス音、エンドピー設定は拡張セットモードで別途設定できます。

13: PTT オン/オフ機能「Ptt」

設定値 oFF / on (初期値 on)

送信を禁止する機能です。OFF に設定後 PTT キーを押すと【Ptt oFF】と表示され、送信できなくなります。ユーザーグループの中に「連絡を聞くだけで、返事はしなくてよい」メンバーがいるとき等に使います。

メモ) この「ラジオ」のような無線機は無線通信の用語で「受令機」と呼ばれています。受信専用のモニターとして使うとき、誤って送信しないようロックを掛けておくことをお勧めします。

14: コールバック機能「CALLb」

設定値 oFF / on (初期値 oFF)

コールバック機能を ON に設定すると、イヤホン(イヤホンマイク)使用時に送信中の自分の声をモニターすることができます。「話したつもりだったが、送信できていなかった」といった[PTT]キーの操作ミスを防げます。

※DJ-P113R 本体内蔵のマイクやスピーカーマイクではハウリングを起こすので使えません。

15: SET キー割り当て「SEt-bt」

設定値 ACH / bCH / EG / Scn (初期値 ACH)

[SET]キーを長押ししたときの動作を下記の機能の一つに割り当てることができます。1回押しや、押しながら起動のしたときの動作は変わりません。

ACH : デュアルオペレーション(モード7)のときのA(メイン)チャンネルを登録します。

bCH : デュアルオペレーション(モード7)のときのb(サブ)チャンネルを登録します。

EG : 緊急通報を使うときに選択します。

Scn : チャンネルスキャンを使うときに選択します。

上記の内容や操作は「DJ-P113R_補足説明書」で詳しく説明しています。

※[SET]キーを長押ししたときの動作が有効になる通話モード :

- ・「EG」: モード1/モード5/モード7
- ・「ACH」「bCH」「Scn」: モード1/モード5

16: 外部音量変更「EvoL」

設定値 L / H (初期値 L)

外部出力端子へスピーカマイクなどを接続するとき、H 設定にすると音量を上げることができます。イヤホンやイヤホンマイクでボリュームを上げすぎると耳を傷めることがあるので切り替えられるようになっています。初期値はイヤホン用の L (小さい音量) です。

※イヤホン、ヘッドセットを使用した状態でのボリューム変更には十分にご注意ください。
この項目を変更して音量を上げると、大きな音で耳を痛める可能性がありますのでご注意ください。

以上

アルインコ(株) 電子事業部

DJ-P113R セットモードの拡張について

DJ-P113R 特定小電力中継器には、環境や特定のニーズによってカスタマイズできると便利な項目を「拡張セットモード」に採用しています。一度設定したら変えることが少なく、「故障かな？」と思うような動作をする項目もあるので、敢えて通常のセットモードの操作とは別にして、ここでご説明します。

内容を良くご理解いただいたうえで操作していただきたいので、操作方法は敢えて最後に記載しました。管理者が行った設定をユーザーが誤ってリセットしないよう、拡張メニューは設定変更後に再び表示を隠すことができ、通常のリセット操作では初期化されないようになっています。

全セットモード一覧

拡張操作をすると、すべての通話モードですべてのセットモード項目が操作できるようになります。メニュー番号 1～22 までは通常セットモードです。ここでは説明していません。通常セットモードの詳細は別紙「DJ-P113R セットモード詳細説明書」をご参照ください。

No.	機能	セットモード	選択項目	初期値	種類	詳細内容
1	中継親機チャンネル周波数帯	b rPt-CH	b/A	b	通常 セットモード (中継器)	
2	中継アラーム	oFF ALm	on/oFF	oFF		
3	中継ハングアップ	0 HunGuP	0/05/1/2	0		
4	中継自動接続手順	on2 Auto	oFF/on1/on2	on2		
5	連結中継アクセス速度	noL LnK-SP	noL/FSt	noL		
6	連結中継ビーコン時間	10 LnK-bc	oFF/5~60(秒)	10		
7	中継子機チャンネル周波数帯	A Unt-CH	A/b	A		
8	コンパンダー	At ComPnd	At/on/oFF	At	通常 セットモード (無線機)	セットモード 説明書
9	秘話	oFF ScrblE	on/oFF	oFF		
10	ベル	oFF bEEL	on/oFF	oFF		
11	ランプ	5 LAmP	oFF/5/on	5		
12	LED	on LEd	on/oFF	on		
13	PTT ホールド	At PttHLd	At/oFF/on	At		
14	送信出力	Pow-At	At/Hi/Lo	At		
15	VOX	oFF vo	oFF/Lo/Hi	oFF		
16	操作音量	3 Sd-voL	0~5	3		
17	サウンド	bp Sound	oFF/bp/Gdc/ALL	bp		
18	エンドビー	oFF EndP	oFF/on/PP	oFF		
19	PTT オフ	on Ptt	on/oFF	on		
20	コールバック	oFF CALLb	on/oFF	oFF		
21	SET キー割り当て	ACH SEt-bt	ACH/bCH/EG/Scn	ACH		
22	外部音量変更	EvoL-L	L/H	L		
23	中継器バッテリーセーブ	oFF rPt-bS	on/oFF	oFF	拡張 セットモード	本書
24	中継器他社互換	50 rPt-ot	0~100	50		
25	連結中継スタート・エンドビー	S-E LnK-bP	oFF/St/End/S-E	S-E		
26	同時通話ループ	oFF AFLoOP	on/oFF	oFF		
27	スケルチレベル	SqL 3	0~5	3		
28	キーロック時間	Loc 2	1~3	2		
29	電池電圧参照	○.○○	-	-		
30	マイクゲイン	4 m-GAin	1~7	4		
31	バッテリーセーブ	on bS	oFF/on	on		
32	デュアルオペレーション再開時間	5 dUAL-t	1~5(秒)	5		
33	オプション使用時の PTT/マイク設定	ALL micPTT	ALL/oUt/OFF/St1~St5/no	ALL		
34	オプション使用時のスピーカー設定	oUt SPKoPE	oUt/inS/ALL	oUt		
35	イヤホン断線検知	on EA-r-C	on/oFF	on		
36	緊急警報鳴動時間	10 EmG-t	10~60	10		
37	秘話周波数	34 SGr-Fq	27~34(×0.1kHz)	34		
38	秘話エンファシス	on EmPHA	on/oFF	on		
39	グループ選択	ton GroUP	ton/Cd1/Cd2	ton		
40	減電池アラーム(アラーム間隔)	oFF bAtt-C	oFF/5~60(秒)	oFF		
41	VOX デイレイ時間	10 vod-t	1~30(×0.1sec)	10		
42	チャンネル表示	AL CHdiSP	AL/noL/oFF	AL		
43	グループトーク判別精度	2 mG-ton	1~5	2		
44	マイク AGC 切り替え	SL AGC	oFF/SL/FS	SL		
45	AGC ターゲットレベル調整	06 AGC-tG	03~24(×-1dB, 3dB Step)	6		
46	テールノイズキャンセル	on tAiLnC	on/oFF	on		
47	減電池スリープ	on bt-SLP	on/oFF	on		
48	お願いコール	oFF PLSCAL	oFF/on/1/5/10/onC/1C/5C/10C	oFF		
49	特殊キーロック	oFF Loc-SP	on/oFF	oFF		

23: 中継器バッテリーセーブ「rPt-bS」

設定値 OFF / ON (初期値 OFF)

半複信中継器(通話モード r1)の専用バッテリーセーブ機能です。中継動作の反応が遅くなり、頭切れの原因にもなるので通常は初期値の OFF でお使いください。電源の無い現場で仮設使用するなど、バッテリーの消費を極力抑えたいときだけ ON 設定をお試しください。

24: 中継器他社互換「rPt-ot」

設定値 0~100(初期値 50)

DJ-P113Rの半複信中継器(通話モード r1)を中継器として使うとき、旧製品や他社製品ではうまく中継動作をしない場合があります。アクセス手順のタイミングが原因の場合、この設定を変えると改善することがあります。通常セットモードの「No. 4 中継接続自動手順」と合わせてお試しください。初期設定以外のタイミングにすると、本機や弊社製の現行機種へのアクセスが不安定になります。すべての中継障害に有効な設定ではなく、動作保証をするものでもありません。

25: 連結中継スタート・エンドピー「LnK-bP」

設定値 OFF / St / End / S-E (初期値 S-E)

連結中継器(通話モード r2)、連結中継子機(通話モード 6)で通話開始(応答)するときのアクセス音「ピピ」と、通話終了時に鳴るエンドピー音の動作を切り替えられます。連結中継モードでのエンドピーはこの設定が優先となり、通常の設定モード項目「エンドピー」では変更できません。

S-E : アクセス音、エンドピーの両方が鳴ります。

End : エンドピーのみ鳴ります。

St : アクセス音のみ鳴ります。

OFF : アクセス音、エンドピーは両方とも鳴りません。

※ 連結中継に使用するすべての中継器と子機を同じ設定値にしてください。

※ アクセス音を止めたら、PTT を押してから 2 秒ほど待って話すようにします。(PTT を押してから通話できるようになるまでのタイミングが分からなくなります。押してすぐ話すと、長めの頭切れが起こります。)

26: 同時通話ループ「AFLooP」

設定値 OFF / ON (初期値 OFF)

同時通話(通話モード 2)で設定すると、通話中の二人の会話を第三者がモニターできます。

3人以上で、任意の人同士で同時通話をするときは ON にしてください。2名だけで使うとき、この機能を ON にすると自分の送信中の声が聞こえます。(自声モニター機能)

※ 3/4者通話は自動でループ状態になります。

27: スケルチレベル「Sql」

設定値 0~5 (初期値 3)

FM 電波特有の、通話が無いときに聞こえる「ザー音」(ホワイトノイズ)を消す「スケルチ」の調整です。工場で標準的なレベルに調整してありますが、ノイズが強い環境などで、通話していない時にカサカサと音が出る場合にレベルを上げます。上げ過ぎると弱い信号も消してしまうため、通話距離が短くなったと感じられることがあります。逆にノイズが低い環境では、レベルを低めに設定することで弱めの信号でも受信しやすくなる場合があります。レベルをゼロにすると、常に「ザー」というノイズが聞こえるようになります。

参考) グループトーク機能設定時はレベルをゼロにしてもホワイトノイズは聞こえません。「ノイズ対策にもなる」とグループトークをお使いいただくよう強く推奨しているのはこのためです。

28: キーロックするまでの時間「Loc」

設定値 1~3 秒 (初期値 2 秒)

指定のキーを 2 秒押すとキーロックが掛かりますが、このタイミングを 1~3 秒の間で変更できます。

※ キーロックは[FUNC]キー長押し「簡易」と、[FUNC]と[SET] キー長押し「通常」の 2 種類があります。

29: 電池電圧表示「(数字)」

お使いのバッテリーパックのおよその電圧を常に数字で表示します。バッテリーが切れそうなどの数字を覚えておけば、バッテリー残量の詳しい目安になります。(テスターのような精度ではありません、あくまで目安の数値です。) バッテリーが入っていないときは「no bAtt」、充電中は「CHARGE」、充電が完了すると「Full」が表示されます。

※電圧以外の表示が更新されるまで、最長約 10 秒かかる場合があります。

※待ち受け時の充電とバッテリーの状態表示は下記をご参照ください。弊社の従来製品とは異なる表示になっています。

充電中 : ディスプレイ右上に電池マークが点滅、LED ランプが青色点灯
充電完了 : ディスプレイ右上に電池マークが点灯、LED ランプが青色点灯
バッテリーで駆動中 : ディスプレイ右上に電池マークが点灯、LED ランプが青色点灯
バッテリー残量低下 : ディスプレイ右上に電池マークが点灯、LED ランプが青色点滅
バッテリー無し (AC アダプターで駆動時) : 電池マークは点灯せず、LED ランプが青色点灯

30: マイクゲイン調整「m-Gain」

設定値 1~7 (初期値 4)

通話時のくせ(音量、マイクと口の間の距離…)やアクセサリマイクのゲインなどの都合で、人によってトランシーバーに入る音量は異なります。このため、音が小さい(話す声が小さい=レベルを大きくする)、音が歪む(音が大きい=レベルを小さくする)等が調整できます。適当に設定するとかえって音が悪くなるので、しっかり通話テストをしてからお使いください。

31: バッテリーセーブ「bS」

設定値 off / on (初期値 on)

一部の無線機モード(モード 1~6)でのバッテリー消費を最小にするバッテリーセーブ機能は、僅かですが通話の始めの部分が途切れる原因の一つになります。これを少しでも軽減する必要がある特殊用途向けに設けた項目です。バッテリーの消費が早くなるため、通常の用途では変更しないでください。

32: デュアルオペレーション再開時間「dUAL-t」

設定値 1~5 (初期値 5 秒)

デュアルオペレーションモードで通話が終了したあと、交互受信(スキャン)を再開するまでの時間です。初期値は 5 秒ですが、運用の仕方によっては早い方が便利な時もあります。ニーズに合わせて変更してください。

33: オプション使用時の PTT/マイク選択「micPtt」

設定値 ALL/oUt/off/St1~St5/no (初期値 ALL)

オプションのイヤホンマイク、スピーカーマイク、ヘッドセットの使用時、本体とオプションの[PTT]キーを押したときに、どのマイクを有効にするか選択できます。運用スタイルに合わせて変更してください。「ALL」「oUt」「off」は弊社製 4 極 1 軸ねじ込みプラグを採用するトランシーバーと同じ動作です。

設定値	本体の[PTT]キーを押した時に有効なマイク	オプションの[PTT]キーを押した時に有効なマイク
ALL	本体とオプション両方	オプションのみ
oUt	オプションのみ	オプションのみ
off	送信しません	オプションのみ
St1	送信しません	本体とオプション両方
St2	オプションのみ	送信しません
St3	本体とオプション両方	送信しません
St4	本体とオプション両方	本体とオプション両方
St5	オプションのみ	本体とオプション両方
no	送信しません	送信しません

【重要：スピーカーマイク使用時の制限】 ※仕様上の理由で、改造はできません。異常ではありません。

- 1 : スピーカーマイク使用時、本体の PTT キーを押しても電波が送信されるだけで、スピーカーマイクに向かって話す声は送信されません。設定項目に関わらず、スピーカーマイクの PTT を押して話してください。
- 2 : PTT ホールドは使えません。どちらの PTT キーを押してもスピーカーマイクのマイクは動作しません。

34: オプション使用時のスピーカー選択「SPKoPE」

設定値 oUt／ins／ALL（初期値 oUt）

別売のイヤホンやスピーカーマイク等を接続して使用する際に、本体やオプションのスピーカー、イヤホンの有効／無効を選択できます。運用スタイルに合わせて変更してください。「oUt」は弊社製4極1軸ねじ込みプラグを採用するトランシーバーと同じ動作になります。

設定値	オプション使用時の動作するスピーカー（イヤホン）	備考
oUt	オプションのスピーカー（イヤホン）のみ動作	弊社製の4極1軸ねじ込み式のトランシーバーと同じ動作
ins	本体の内蔵のスピーカーのみ動作	
ALL	両方のスピーカー（イヤホン）が動作	

ご注意：

- ・[ALL]設定にすると、仕様上の理由で初期設定より大きい音が鳴ります。大きな音で耳を痛める可能性がありますので十分にご注意ください。特にイヤホン使用時、音量の上げすぎにご注意ください。

35: イヤホン断線検知「EAr-C」

設定値 oFF / on（初期値 on）

本体に接続したイヤホンやイヤホンマイクのケーブル断線を検知する機能です。ONに設定すると起動時に検知動作を行い、断線していると判断すれば10秒間、[EAr-nG]表示と内蔵スピーカーのアラーム音でお知らせします。通常セットモードの「No.17 サウンド」設定を「Gdc」または「ALL」に設定していると、アラームの代わりに「イヤホンが断線しています」というガイダンス音声でお知らせします。

36: 緊急通報時間「EmG-t」

設定値 10～60（初期値 10秒）

緊急通報のアラーム鳴動時間と送信時間は10秒に初期設定されていますが、10秒単位（最大60秒）で長くできます。

※通常セットモードの「No.17 サウンド」設定を「Gdc」または「ALL」に設定していると、「異常が発生しました」というガイダンス音声は2回鳴動します。この回数は固定のため、変更することはできません。

37: 秘話通信周波数「Scr-Fq」

設定値 27～34（初期値 34 : 3.4KHz）

秘話設定のコード（正確には周波数ですが）を変えて、異なる秘話グループを作れます。変更するときは、通話したいグループ全員の設定を同じに揃えてください。

38: 秘話エンファシス「EmPHA」

設定値 oFF / on（初期値 on）

弊社製、他社製に限らず特定小電力トランシーバーの秘話通話は機種によって相性があり、音声が聞き取りづらい場合があります。聞き取りづらいつ感じたときに、この設定を切り替えると改善される場合がありますが、動作を保証するものではありません。通常は初期値でお使いください。

39: グループトークの種類切り替え「GrouP」

設定値 ton／Cd1／Cd2（初期値 ton）

本機のグループトークは一般的な番号方式（トーンスケルチ）の他、DCS（デジタルコードスケルチ）に切り替えることができます。グループ種類切り替えをCd1、Cd2に設定し、通常のトーンスケルチと同様に通常画面で[SET]キーを押すことでDCS番号を設定することができます。番号変更の操作はトーンスケルチと同様に、[FUNC]キーを押しながら[▽]または[△]キーを押します。通話グループ全員に同じ設定をします。

Cd1:01～83の83通りのコード番号から選択できます。運用時はチャンネルと2桁のDCS番号を表示します。

Cd2: Cd017～Cd754の108通りのコードから選択できます。運用時はチャンネルとCdを表示、[FUNC]キーを短く押すとCdと3桁のDCS番号を確認できます。[FUNC]キーを長く押し続けているとキーロック操作になるのでご注意ください。

※DCSの設定が有効な通話モードは通話モードr1、1、5、7です。それ以外のモードでは決められたチャンネルグループで動作するため設定することはできません。また、半複信中継子機（通話モード5）のときのリモコン設定でDCSを設定していると正常にリモコン動作できません。DCSを設定して中継動作するには

中継器本体を操作してください。

40: 減電池アラーム時間「bAtt-C」

設定値 oFF / 5~60 秒 (初期値 oFF)

LED ランプの減電池表示 (青色点滅) とともに設定時間ごとに 1 回、バッテリーが減っていることをアラーム音でもお知らせできます。音を鳴らす電力が消費されるため、アラーム間隔を短く設定するほど早くバッテリーが切れます。通常セットモードの「No. 17 サウンド」設定が「Gdc」または「ALL」に設定していると「充電をしてください」というガイダンス音声でお知らせします。

41: VOX 送信持続時間「vod-t」

設定値 01~30 (初期値 10 : 1.0 秒)

VOX で送信したとき、音声があっても初期値では 1 秒間送信状態を保持するので、短い息継ぎをしても途切れません。この時間を 0.1 秒~3.0 秒に変更できます。送受信の切り替えをテキパキと行いたいときに、設定を短めにするると使い勝手が向上しますが、黙るとすぐ送信が落ちることもあり、十分に動作確認をしてからお使いください。

42: チャンネル表示変更・非表示「CHdiSP」

設定値 AL / noL / oFF (初期値 AL)

弊社製品のチャンネル表示は L01~L09、b01~b11 です。チャンネル表示設定を noL に変更することで 01~20 表示に変更することができます。他社製で、これに近い表示をしている機種種のチャンネルに合わせやすくします。

AL	noL
b01~b11	01~11
L01~L09	12~20
b12~b29 (中継)	01~18 (中継)
L10~L18 (中継)	19~27 (中継)

OFF を選ぶとチャンネルを非表示 (-----) にでき、別のユーザーからどのチャンネルで通話しているか見られずに済みます。非表示にしているときはチャンネルとグループ設定の変更はできません。再設定する場合はチャンネル表示を AL または noL にしてください。

43: グループトーク判別精度「mG-ton」

設定値 1~5 (初期値 2)

・他社製や弊社製の旧型機と混用すると、グループトークができないことがあります。最新の部品を採用する本機はグループトーク信号の読み取り精度が非常にシビアで、少しでもズレた信号には反応しないことから起こる「相性問題」です。

・この設定を変更する前に、相性問題が起きにくい 10 番~37 番の間で全体が動作するグループトーク番号を探してみてください。どうしても上手くいかないときだけ、判定精度をわざと甘くするこの項目をお試しください。1 が最も厳しく、5 が甘くなります。甘くし過ぎると近い番号のグループ信号でもスケルチが開くことがあり、テールノイズキャンセル機能も動かなくなるので、スケルチが切れるときの「ザ！」ノイズが聞こえます。初期値の 2 は、かなりシビアに判定します。

44: マイク AGC 切り替え「AGC」

設定値 oFF / SL / FS (初期値 SL)

マイクに大きな声が入った場合、通話音声が歪むことがあります。この歪みを緩和するのが AGC (自動ゲイン調整) で、大きな声を検知したときにゆっくり緩和させる低速「SL」と瞬時に緩和させる高速「FS」の 2 種類から選べます。他社製や旧機種と混用する場合、通話品質の相性問題を解決できることがあります。逆に音が悪くなることもあります。複数の機種が混在するときは全部の機種で音質を確認してください。

45: AGC ターゲットレベル調整「AGC-tG」

設定値 03~24 (初期値 06)

マイク AGC 設定を入れたときに、歪みを緩和させる音量のポイントを調整することができます。設定する数値を小さくすることで、より大きい声のときの歪みを緩和させます。逆に数値を大きくすると小さい声の歪みを緩和することができますが、相手に自分の声が小さく聞こえます。これも前項同様、受信側の機種との相性も含めて、下手にいじると逆に送信音を悪くすることがあるので必ず実験してからご使用ください。

46: テールノイズキャンセル「tAiLnC」

設定値 OFF / on (初期値 on)

グループトーク機能を入れていなくても、通話終了時に受信側から聞こえるテールノイズ（受信から待ち受けになるときの「ザ！」という短いノイズ音）を除去する「テールノイズキャンセル機能」のオンオフです。テールノイズキャンセル機能は送信側と受信側の両方が有効なときのみ動作するので、この機能が入っていない無線機と通話すると設定にかかわらずテールノイズは聞こえてしまいます。弊社製の対応機種どうして使う場合、初期値を変える必要はありません。

47: 減電池スリープ「bt-SLP」

設定値 OFF / on (初期値 on)

バッテリーパック使用時、適正な充電をしないと起きる過放電はバッテリーパックの劣化や充電不良の原因になります。これを防ぐためバッテリーの電圧が一定レベルまで低下すると、初期値の ON では自動的にスリープ（省電力状態）に切り替わります。OFF にするとバッテリーを最後まで使い切ることができますが、大きな差ではありません。特殊な理由が無ければ ON でお使いください。

※いずれの設定でも待機電流は発生するので、充電できる環境になったらすぐに充電してください。

バッテリーパックを使わないときは本体から取りだして、涼しい乾いた直射日光が当たらない場所に保管してください。満充電でも放電でもない、50%程度が保存に理想的な充電状態です。

48: お願いコール「PLSCAL」

設定値 OFF/on/1/5/10/onC/1C/5C/10C (初期値 OFF)

半復信中継器（通話モード r1）や交互通話（通話モード l）で通話中、グループトーク番号が不一致やグループ番号無しの電波（混信）を5秒以上受信すると、キャリアセンスが終わって送信できるようになったらすぐに、その相手にチャンネルの変更を促すガイダンスを送信できます。あらかじめ空きチャンネルをスキャンさせ、ガイダンスで変更に適したチャンネル番号をお知らせしたり、お知らせする頻度を選んだりできます。設定内容は以下の通りです。

設定値	お知らせの間隔	空きチャンネルのお知らせ
on	5秒以上受信するたびにお知らせ	しない
1	お知らせしてから1分間はお知らせしない (以下、停止)	しない
5	お知らせしてから5分間は停止	しない
10	お知らせしてから10分間は停止	しない
onC	5秒以上受信するたびにお知らせ	する
1C	お知らせしてから1分間は停止	する
5C	お知らせしてから5分間は停止	する
10C	お知らせしてから10分間は停止	する

※必ずグループトーク機能を使って通話してください。

※本機のグループトークをOFF、またはDCSに設定していた場合「お願いコール」は動作しません。本機もDCSは採用していますが、仕様上の理由から相手にこちらのメッセージを伝えることはできません。

お知らせするガイダンス内容は以下の通りです。

「空きチャンネルのお知らせ」無し：

→「このチャンネルは混み合っています。他のチャンネルへの変更をお勧めします。」

「空きチャンネルのお知らせ」有り：

→「このチャンネルは混み合っています。チャンネル〇〇〇への変更をお勧めします」

（ガイダンスのチャンネル番号は、拡張セットモードの「No. 42 チャンネル表示設定」に合わせた内容でお知らせします。初期設定であれば「b01」のように、数字だけに設定されていれば「01」のようにガイドします。）

49: 特殊キーロック「Loc-SP」

設定値 OFF/ON (初期値 OFF)

DJ-P113Rは中継器モードでも受信音声のボリュームが変更でき、[PTT]キーで送信することができます。これらの機能を使わず、第三者が触れられるような環境に設置するときは、この項目で特殊キーロックを掛け、キーロック解除以外の操作を禁止しておくことをお勧めします。受信音量や[PTT]操作はできなくなります。

この設定を ON にすると、[SET]キーと[FUNC]キーの両方を長押しする通常キーロックが「LoC-2」から「LoC-SP」に変わり、特殊キーロックが有効になります。同じ操作を繰り返すと解除できます。

※この設定と同時に、拡張セットモードの「No. 28 キーロック時間」を長くすることで、一層いたずらや誤操作を防ぐことができます。

[セットモード拡張方法]

- 1: キーロックを掛けます。(2つあるうちの、どちらの方法でも構いません。)
 - 2: [SET]キーを5回連続で押します。10秒以内に5回押さないと有効になりません。
キー操作が有効であれば「ピピッ」とビープ音が鳴ります。
 - 3: 自動的にキーロックが解除されます。
 - 4: セットモードに入るとすべてのメニューが追加されています。通常のセットモードと同様に操作します。
- * 上記1~4の操作を繰り返すと、変更した値を保存して拡張メニューを隠すことができます。

[拡張項目のリセット]

- * チャンネルや通常のセットモードも含んで、全てを工場出荷状態まで初期化するには、アダプターを抜いて電源を切った後[▽]、[△]、[FUNC]キーの3つ全てを押したままでアダプターを挿して電源を入れます。画面が全点灯したら指を離します。「r1b L10」で起動したら工場出荷状態です。
- * 説明書に記載のリセット (FUNC キーを押しながら電源を入れる) では拡張セットモードは閉じず、設定した値も初期化されません。拡張セットモード以外の設定だけが工場出荷状態に戻ります。

以上

アルインコ (株) 電子事業部

DJ-P113R 補足説明書

DJ-P113R 特定小電力中継器は中継器機能以外にトランシーバーとしても使用できる多彩な通話モードを搭載しています。本書では製品に付属の取扱説明書には敢えて記載していない通話モードの詳細について説明します。

●トランシーバーの通話モード一覧と設定方法

① トランシーバーモードにする

- ・付属品の AC アダプターを AC100V のコンセントに接続します。まだ本機にはプラグは接続しません。
- ・[SET]キーを押したままで AC アダプターのプラグを本機に接続すると、ディスプレイに「SEt t-modE」が表示され、ディスプレイ左側のモード番号表示が点滅します。この表示が出たらすぐに指を離してください。押し続けたままにすると、ACSH モード（付属取扱説明書の記載機能）が動作します。

② 通話モードを選ぶ / 共通：「使用するチャンネル」は選択したモードに合うものが自動で設定されます。

[▽]または[△]キーを押して通話モードを選択します。

通話モード	使用するチャンネル	モード番号表示	参照する取扱説明書
半復信中継器	L10~L18、b12~b29	r1	製品に同梱
連結中継器	A~H	r2	製品に同梱
交互通話	L01~L09、b01~b11	1	本書
同時通話	L10~L18、b12~b29	2	本書
3者同時通話	trPL-A~H	3	本書
4者同時通話	qAd0-A~H	4	本書
半復信中継子機 と中継器リモコン操作	L10~L18、b12~b29	5	本書
連結中継子機	A~H	6	本書
デュアルオペレーション	L01~L09、b01~b11 L10~L18、b12~b29	7	本書
最適チャンネルサーチ	L01~L09、b01~b11 L10~L18、b12~b29	8	本書

③ 選択したモードを確定する

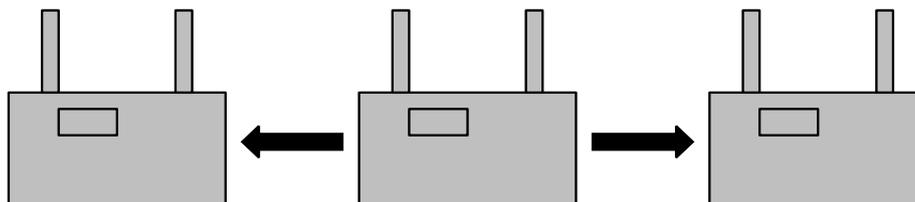
- ・[PTT]キーを押すと、ピ！と設定音が鳴り、左側の表示が点灯に変わります。
- ・通話モードを変更するときは、AC アダプターのプラグを抜いて、上記①から繰り返し操作します。電源を切っても（アダプターや電池を抜く）、次回に電源が入るとこの通話モードで起動します。

●各通話モードの操作方法

通話モードを確定してからの操作方法です。一部記述を省略していますが、ランプの点灯色は共通で、青がスタンバイ（待ち受け）、緑が受信、赤が送信（同時通話モードでは通話中）です。

① 交互通話

トランシーバーではもっとも基本的な通話モードです。チャンネルとグループトーク番号が同じであれば、他の特定小電力トランシーバーとも通話できます。電波が届く範囲に居れば、一人の話し声を何人でも聞くことができます。



チャンネルとグループ番号を合わせる

チャンネル番号とグループトーク番号は、ユーザー全員が同じになるように合わせます。

- ・ [SET]キーを押しながら[▽]または[△]キーを押すとチャンネルが変わります。
- ・ 同じグループの人とだけ通話したいときはグループトーク機能も設定します。ノイズを聞こえにくくする効果も期待できます。 [SET]キーを1回押すとディスプレイ右側にグループ番号が表示され、機能がオンになります。もう一度押すとオフになり番号は消えます。
- ・ グループ番号表示中に[FUNC]キーを押しながら[▽]または[△]キーを押してグループ番号を選びます。他社機や、アルインコ製でも生産を終了しているような古いトランシーバーが混在するとき、番号は02～37番の中から選びます。それ以外ではグループ信号の読み取り精度の違いからくる相性問題で、通話できないことがあります。01番は多用され、混信しやすいのでお勧めしません。

音量を調整する。

- ・ [▽]または[△]キーを押すと音量を0～30までの31段階で調整できます。
- ・ キーを押すごとにプ！とビーブ音が鳴り、数字が大きくなるほど音も大きくなりますが、実際の音量はビーブ音よりはるかに大きくなります。
- ・ [▽]と[△]キーを同時に押すと「ザー」というノイズが聞こえ、実際の音量が確認できます。本機の最大音量は3Wと大きいため、大きなボリュームレベルでの確認時は耳を傷めないようご注意ください。
- ・ この音量設定は中継器モードとは別です。ここでの調整は中継器モード時の音量に反映されません。

通話する。

信号を受信するとディスプレイのが点灯し、スピーカーから相手の声が聞こえます。

送信するときは[PTT]キーを押したままマイクに向かって話します。送信中はディスプレイにが点灯します。話し終わったら[PTT]キーを離します。マイクと口の間の距離は使用者の声量で変わるので、相手に聞いてもらい調節します。

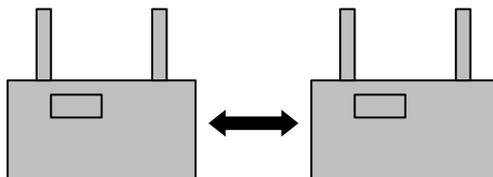
コールトーン機能

送信中に[▽]キー、[△]キーのいずれか、または両方を押すと音色の異なる呼び出し音が鳴り、相手に注意喚起することができます。

②同時通話

電話のように2者間で話すモードです。通話は1対1ですが、ループ機能を設定するとほかの何人でも、電波が届くところに居れば二人の通話を聞くことができます。通話が終わったら任意の2名同士が通話できませんが、通話中の割り込みはできません。

重要：必ずオプションのヘッドセットかイヤホンマイクをご使用ください。スピーカーマイクはハウリングが起るためご使用になれません。



チャンネルとグループ番号を合わせる

チャンネル番号とグループトーク番号は、ユーザー全員が同じになるように合わせます。

- ・ [SET]キーを押しながら[▽]または[△]キーを押すとチャンネルが変わります。
- ・ グループトーク機能は、同時通話では自動的にオンになり、グループ番号が表示されます。 [FUNC]キーを押しながら[▽]または[△]キーを押してグループ番号を選びます。01番は多用され、混信しやすいのでお勧めしません。
- ・ b12～b29は3分に1回2秒間のタイムアウトが無い連続通話CHですが、通話距離は狭くなります。チャンネル番号の下に出るドットはローパワー送信表示です。

音量を調整する 別売マイクを接続してから調整します。

- ・ [▽]または[△]キーを押すと音量を0～30までの31段階で調整できます。
- ・ キーを押すごとにプ！とビーブ音が鳴り、数字が大きくなるほど音も大きくなりますが、実際の音量はビーブ音よりはるかに大きくなります。
- ・ この音量設定は中継器モードとは別です。ここでの調整は中継器モード時の音量に反映されません。

通話する

初期設定では PTT を押すとハンズフリー、もう一度押すとスタンバイに戻る PTT ホールドが機能します。

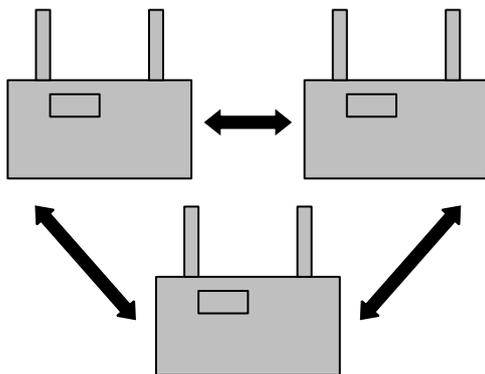
- ・ [PTT] キーを押してランプが赤に変わり、「送」が表示されたら指を離します。送信が始まったので相手の名前をマイクに向かって呼びかけるなど通話を始める合図をします。
- ・ 呼びかけを聞いた人は「受」が表示されるので、[PTT] キーを押します。赤ランプが点灯したら指を離し、互いのディスプレイに「送」「受」が表示されている間はハンズフリーで同時通話ができます。
- ・ A さんが別の人と通話したいときは「Cさんと通話したいので、Bさんはスタンバイしてください。」のように話します。Bが[PTT]キーを押すと受信だけの状態に戻り、Aだけが送信状態を保持します。Cが[PTT]キーを押して「はいAさん、Cです。」のように通話を始めます。この時Cのランプは赤点灯、ディスプレイには「送」「受」が表示されます。

③3 者同時通話モード

コントローラーを使用せず、3人が同時通話できます。

重要：

- ・ **必ずオプションのヘッドセットかイヤホンマイクをご使用ください。**スピーカーマイクはハウリングが起るためご使用になれません。
- ・ ユーザーの位置関係などで通話に制限がかかることがあります。必ず使用を始めるまえに本書の最後のページの3者間通話補足説明をご参照ください。
- ・ 3者通話設定のまま2人で通話するには制限があります。任意の2者間で自由に同時通話するには2者間同時通話設定をお勧めします。



チャンネルグループを合わせる

[FUNC]キーを押しながら[▽]または[△]キーを押して、A~Hの中から1つ選んで3台とも同じチャンネルグループに合わせます。チャンネルやグループトーク番号はあらかじめ最適なものがプリセットされていて、細かい設定は不要です。

親機について

3者同時通話では、1人がコントローラー役を兼ねる親機になります。なるべく動きが少なく、通話圏内の中心に居る人が最適です。親機と子機の1台が至近距離にあると2台目の子機の声が聞こえにくくなる場合があります。3人ともそれぞれ10m以上離れてください。いずれか2者間の距離が遠く、信号が弱いときは3人すべての声に雑音が混じることがありますが、異常ではありません。位置関係が回復すると自動的に元に戻ります。

親機設定は通話を始める前のマッチングで一番初めに送信する方法と、あらかじめ個体番号を付けて固定する方法が選べます。

【個体番号を設定する】

- ・ [SET]キーを1回押すとA~H表示の右側に1~3の番号が表示されます。[SET]キーを押したまま△▽キーを押して、親機になる個体に1番を割り当てます。2と3は任意で構いません。
- ・ 同じ操作を繰り返して数字を消すと[PTT]キーを押す順番で親を決める初期状態に戻ります。

音量を調整する 別売マイクを接続してから調整します。

- ・ [▽]または[△]キーを押すと音量を0 ~ 30までの31段階で調整できます。
- ・ キーを押すごとにプ!とピープ音が鳴り、数字が大きくなるほど音も大きくなりますが、実際の音量はピープ音よりはるかに大きくなります。

- ・ この音量設定は中継器モードとは別です。ここでの調整は中継器モード時の音量に反映されません。

通話する

初期設定では PTT を押すとハンズフリー、もう一度押すとスタンバイに戻る PTT ホールドが機能します。

【初期状態：個体番号を設定しないとき】

- ・ 親機になる人が最初に [PTT] キーを押して離します。赤ランプが点灯、「送」が表示されたら 2 人目の人が [PTT] キーを押して離します。「送受」が表示され赤ランプが点灯したら 3 人目も同様に [PTT] キーを押して離します。全員のディスプレイに「送受」が点灯し、赤ランプが点灯している間、ハンズフリーで 3 者同時通話ができます。
- ・ 休憩などで通話から抜けるときは [PTT] キーを押します。「送」と赤ランプが消えます。子機が抜けても残りの 2 人は通話できますが、親が抜けると全員の通話ができなくなります。子機はまた [PTT] キーを押すと通話に戻れますが、親機が抜けたときは改めて 3 人のマッチングが必要です。

【親機の個体番号を設定したとき】

- ・ 順番に関係なく全員が自分の [PTT] キーを押して指を離します。但し必ず一人が押し終わったら次の人、のように少しタイミングをずらせて操作してください。同じタイミングだと正しくマッチングできないことがあります。全員に「送受」と赤ランプが点灯している間、ハンズフリーで 3 者同時通話ができます。

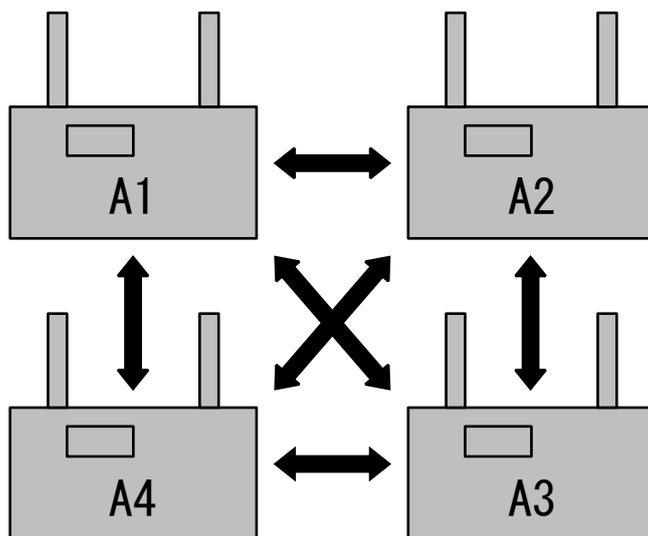
[PTT] キーを押すタイミングが重なり通話に失敗したときは、[PTT] キーを押して赤ランプを消し、2 秒以上待ってから再度 1 人目から操作してください。

④4 者同時通話モード

コントローラーを使わず 4 人が同時通話できます。

重要：

- ・ 必ずオプションのヘッドセットかイヤホンマイクをご使用ください。スピーカーマイクはハウリングが起るためご使用になれません。
- ・ ユーザーの位置関係などで通話に制限がかかることがあります。必ず使用を始めるまえに本書の最後のページの 4 者間通話補足説明をご参照ください。
- ・ 必ずユーザーは 4 人必要です。4 者通話設定のまま 2 人、3 人で通話することはできません。



Aグループで4者同時通話した際の概要図

チャンネルグループ、個体番号を合わせる

- ・ [FUNC] キーを押しながら [▽] か [△] キーを押して、A~H のうちから 1 つ選んで全員同じに合わせます。
- ・ 4 者同時通話では、あらかじめ「1」「2」「3」「4」の個体番号を設定します。[SET] キーを押しながら [▽] か [△] キーを押すとアルファベットの後ろの個体番号が変わります。概念図のように 1 台ずつに違う番号を振ります。

音量を調整する 別売マイクを接続してから調整します。

- ・ [▽]または[△]キーを押すと音量を0～30までの31段階で調整できます。
- ・ キーを押すごとにプ！とビーブ音が鳴り、数字が大きくなるほど音も大きくなりますが、実際の音量はビーブ音よりはるかに大きくなります。
- ・ この音量設定は中継器モードとは別です。ここでの調整は中継器モード時の音量に反映されません。

通話する

初期設定ではPTTを押すとハンズフリー、もう一度押すとスタンバイに戻るPTTホールドが機能します。

- ・ 順番に関係なく全員が自分の[PTT]キーを押して指を離します。但し必ず一人が押し終わったら次の人、のように少しタイミングをずらせて操作してください。同じタイミングだと正しくマッチングできないことがあります。全員に「送受」と赤ランプが点灯している間、ハンズフリーで4者同時通話ができます。

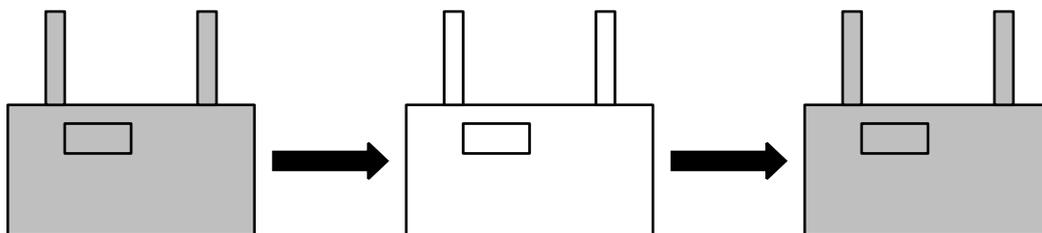
[PTT]キーを押すタイミングが重なり通話に失敗したときは、[PTT]キーを押して赤ランプを消し、2秒以上待ってから再度1人目から操作してください。

注意：

- ・ 4者の位置関係はお互いに10m以上の間隔で離れて、前ページのようになるべく円状になるのがベストです。線上に並んだ場合やA1～A4の並び順が入れ替わった場合は正常に通話できなくなります。
- ・ 1台間隔で、聞こえる声が少し小さくなりますが異常ではありません。改善方法はありません。
(例：A1とA3間、A2とA4間の声は、他より小さく聞こえます。)
- ・ 通話中、誰かが一人でも通話グループを抜ける、通話エリアから抜けると別の人の通話も途切れます。途切れると困るときは無線機を送信状態のままにしておきます。
- ・ 5名以上のグループで使用者が入れ替わる場合でも通話時は概要図の位置関係になるようお使いください。また、受信するだけの場合は人数に制限は設けていませんが、特定の位置で受信する際は一番近い通話中の个体番号と同じ設定にしてください。離れた位置の个体番号に合わせると正常に受信できない場合があります。

⑤半複信中継子機と対応中継器のリモコンモード

半複信方式の中継器（DJ-P113Rの出荷状態設定）にアクセスする子機の通話モードです。中継器を介することで、直接では電波が届かない相手と通話することができます。チャンネルやグループトーク番号が同じであれば、他の特定小電力トランシーバーとも中継通話できますが、他メーカー製や新旧の機種と混用すると相性問題で通話できないことがあります。またこのモードでプログラムした内容を、対応する弊社製中継器に転送して無線で設定変更ができるリモコンとしても使えます。



チャンネルとグループ番号を合わせる

チャンネル番号とグループトーク番号は、中継器と同じになるように合わせます。アルインコの中継器を基本設定で使用中は、5の後のAは変更しないでください。特殊な設定や他社製中継器などの場合、必要に応じてセットモードでBに変更できます。

- ・ [SET]キーを押しながら[▽]または[△]キーを押すとチャンネルが変わります。
- ・ 混信させないよう、中継器にはグループトーク機能が設定されていることがほとんどです。[SET]キーを1回押すとディスプレイ右側にグループ番号が表示されグループトークが動作します。表示中に[FUNC]キーを押しながら[▽]または[△]キーを押してグループ番号を選びます。他社機や、アルインコ製でも生産を終了しているような古いトランシーバーが混在するとき、グループトークに使われる信号の読み取り精度の違いからくる相性問題で通話できないことがあります。グループ番号を02～37番の間で変えて、全体が使える番号を探すと解決することがあります。01番は多用されているので別の番号をお勧めします。
- ・ もう一度[SET]キーを押すと機能がオフになり、番号は消えます。

音量を調整する

- ・ [▽]または[△]キーを押すと音量を0～30までの31段階で調整できます。
- ・ キーを押すごとにプ！とビーブ音が鳴り、数字が大きくなるほど音も大きくなりますが、実際の音量はビーブ音よりはるかに大きくなります。
- ・ [▽]と[△]キーを同時に押すと「ザー」というノイズが聞こえ、実際の音量が確認できます。大きなボリュームレベルでの確認時は耳を傷めないようご注意ください。
- ・ この音量設定は中継器モードとは別です。ここでの調整は中継器モード時の音量に反映されません。

送信/受信する

信号を受信すると「受」とランプが緑に点灯してスピーカーから相手の声が聞こえます。

[PTT]キーを押したまま、マイクに向かって話します。話し終わったら指を離します。送信中はディスプレイに「送」、ランプが赤に点灯します。セットモードでPTTホールド機能をオンにすれば指を離しても送信状態を保持するハンズフリー通話ができます。

コールトーン機能

送信中に[▽]キー、[△]キーのいずれか、または両方を押すと音色の異なる呼び出し音が鳴り、相手に注意喚起することができます。

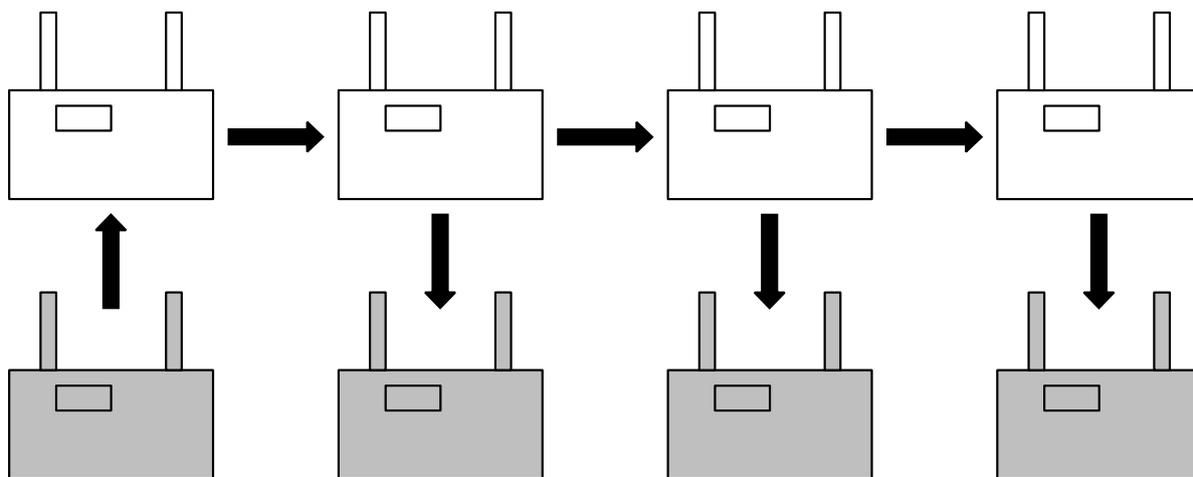
対応中継器のリモコン変更操作

対応する中継器のチャンネル、グループ番号その他の設定を無線で中継器に送り、設定変更できます。

- ・ チャンネル、グループ番号、「自動接続手順」、「ハングアップタイマー」、「アラーム」をリモコン設定できます。別紙「セットモード詳細説明書」をご参照のうえ、転送したい内容を本機にプログラムします。
- ・ [▽]と[△]キーを同時に3秒以上押し続けるとディスプレイに「Snd rmo-ST」が表示され、データ転送を始めます。
- ・ 対応中継器の説明書を参照して、中継器をリモコン受信できる状態にします。半複信中継器または連結中継器モードにしたDJ-P113Rの場合はACアダプターを抜き挿しします。起動時10秒間リモコン受信状態になり「rEmCon」が表示されデータを受信し始めます。
- ・ 転送が終わるとディスプレイに「○○○○○○」が表示され、中継器に戻ります。中継器はリモコンからのデータ転送を受信すると10秒以内に完了します。
- ・ 途中で止める場合は[PTT]キーを押します。転送をキャンセルして中継器に戻ります。中継器側には一切の変更は反映されません。

⑥連結中継子機

無線連結対応中継器を4台まで使って通話エリアを拡大する「連結中継モード」の子機モードです。弊社製対応中継器専用です。(本書作成時はDJ-P113RとDJ-U3Rです。有線連結のDJ-P11Rは対応しません)自動で最寄りの中継器にアクセスするため、中継器に合わせてチャンネルを変える必要がありません。



チャンネルグループを合わせる

[FUNC]キーを押しながら[▽]または[△]キーを押して、本機を中継器と同じA～Hのチャンネルグループに合わせます。

音量を調整する

- ・ [▽]または[△]キーを押すと音量を0～30までの31段階で調整できます。
- ・ キーを押すごとにプ！とビーブ音が鳴り、数字が大きくなるほど音も大きくなりますが、実際の音量はビーブ音よりはるかに大きくなります。

- ・ この音量設定は中継器モードとは別です。ここでの調整は中継器モード時の音量に反映されません。

送信/受信する。

信号を受信するとディスプレイのが点灯しスピーカから相手の声が聞こえます。送信するには [PTT] キーを押したままにします。アクセスできるようになるまで「ピピピ・・・」というアクセス音が鳴ります。アクセス音が鳴り終わってから PTT キーは押したままマイクに向かって話します。送信中はディスプレイにが点灯します。話し終わったら PTT キーを離します。

コールトーン機能

送信中に [▽] キー、 [△] キーのいずれか、または両方を押すと音色の異なる呼び出し音が鳴り、相手に注意喚起することができます。

中継器番号を設定する

※中継器を自動切換しない場合、または中継器をリモコン設定するときだけ操作します

このモードでは、中継器から定期的に送信される制御信号を子機が受信して、自動的に最適と判断した中継器を介して通話します。この動作があるため、アクセスまでの余計な時間や誤判断による通話品質の低下が起こることがあります。本機は基地局型ですから中継器間を移動しながら使うことは少ないと思われます。もし最寄りの中継器が分かっている、そこにだけアクセスできれば良いときは、以下の操作でその中継器の番号を登録しておく、余計な動作を省いて安定した通話ができます。

- ・ [SET] キーを 1 回押すと、ディスプレイの「LnK」とチャンネルグループの間の点滅している「.(ドット)」が点灯に変わります。 [SET] キーを押しながら [▽] または [△] キーを押して中継器の番号 1~4 を選びます。自動切換えに戻すときは同じ操作をして、ドットを点滅させます。

中継器の設定をリモコンで変更する

前項の操作で「.(ドット)」を点灯状態にします。リモコン設定する中継器のチャンネルグループと番号を設定します。例えば中継器台数が 2 台なら A1, A2、3 台なら B1, B2, B3、4 台であれば C1, C2, C3、C4 のようにします。

- ・ FUNC キーを押したまま△/▽キーを操作してチャンネルグループ A~H を選びます。
- ・ SET キーを押して中継器番号を選びます。
- ・ 別紙「セットモード詳細説明書」を参照して、その他の機能も必要に応じてプログラムします。「連結中継アクセス速度設定」「中継ビーコン間隔時間設定」が設定できます。

以下、設定する中継器と一緒に操作するので、まず先に説明を読んでください。

- ・ リモコン側は [▽] と [△] キーを同時に 3 秒以上押し続けると、ディスプレイに「Snd LnK-St」が表示されてプログラムしたデータの転送が始まります。
- ・ 対応の連結中継器の説明書を読んで、リモコン受信できる状態にします。DJ-P113R の場合は半複信中継器モード (r1) または連結中継器モード (r2) にして AC アダプターを抜き差しします。
[r E m C o n] が表示されている間の 10 秒間に上記の操作をします。
- ・ 設定が完了するとディスプレイに「○○○○○○」が表示され、リモコン側は連結中継子機に戻ります。転送中に操作をキャンセルするときは [PTT] キーを押します。

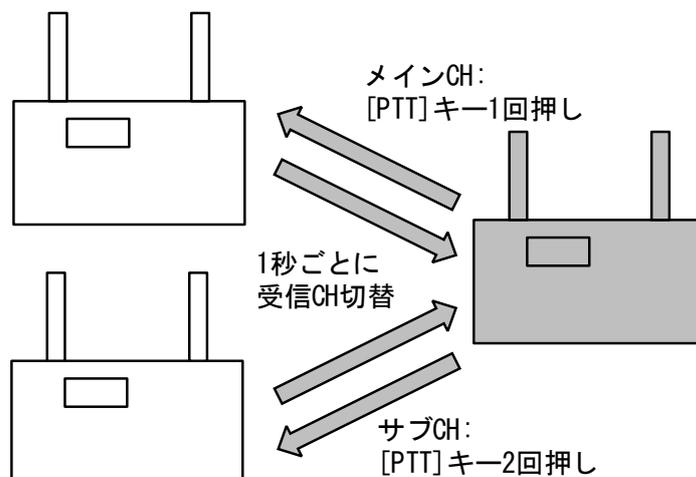
注) ・ 連結中継時、子機は最適な中継器を探して常にスキャンするので、バッテリーセーブ機能が働きません。このため別売のバッテリーパックをお使いのとき、他のモードより電池の減りが早くなります。

- ・ 連結中継モードは、一般的な中継対応トランシーバーでは設定も通話もできません。この機能に対応する専用のトランシーバーが必要です。
- ・ 設置に関する説明と注意点は、中継器の取扱説明書をお読みください。正しく設置しないと誤動作します。

⑦デュアルオペレーション

交互・交互中継通話モードでメイン/サブの2つのチャンネルを交互に受信、そのどちらとも通話できるモードです。あらかじめ専用メモリーチャンネルにメインとサブチャンネルを登録して使います。

参考： 全員に設定すると、だれがどちらの CH をスキャン中かわからず、通話しにくくなります。この機能は例えば2つの通話グループを管理する責任者だけに設定して、その人が必要に応じて通話したいグループを選んで呼び出すようなときのもので、自由に2CH を使えるようにはしてありません。



【設定前のご注意】

- ・メモリー登録する際は、セットモードの「SET キー割り当て設定」項目を「ACH」、「bCH」にします。詳しい操作方法や内容は「DJ-P113R セットモード詳細説明書」をご参照ください。
 - ・このモードを使用中、スキャン機能は動作しなくなります。また、登録後に緊急通報を ON に設定するとチャンネルの状態にかかわらず常にメイン側で発報するようになります。
- ・メイン/サブチャンネルが正しく設定されていないと「- - - - -」が表示され、メインとサブが同じチャンネルだとエラーの「E」表示が点滅してデュアルオペレーションは動作しません。必ず別のチャンネルに設定してください。

メイン側/Aのチャンネルを登録する

・通話モードを交互通話(モード1)または半複信中継子機(モード5)にして、FUNC キーを押したまま SET キーを何度か押し、ACH SEt-bt 表示にします。(セットモード項目、SET キー割り当て) 初期状態は ACH ですが、bCH や EG などが表示されたら△▽キーで ACH にします。PTT キーを押して確定します。

- ・メインにしたいチャンネルとグループトーク番号を設定します。
- ・[SET]キーを3秒以上押し続けるとディスプレイに「ACH writE」が表示されます。

サブ側/Bのチャンネルを登録する

- ・同じ操作を繰り返して、セットモードの ACH SEt-bt を△▽キーで「bCH」に変更します。
- ・サブチャンネルの番号とグループトーク番号を設定してから[SET]キーを3秒以上押し、「bCH writE」を表示させます。

登録後、通話モードをデュアルオペレーション(モード7)にします。1秒間隔で登録したメインとサブチャンネルのスキャンが始まります。

音量を調整する

- ・[▽]または[△]キーを押すと音量を0～30までの31段階で調整できます。
- ・キーを押すごとにプ!とピープ音が鳴り、数字が大きくなるほど音も大きくなりますが、実際の音量はピープ音よりはるかに大きくなります。
- ・[▽]と[△]キーを同時に押すと「ザー」というノイズが聞こえ、実際の音量が確認できます。大きなボリュームレベルでの確認時は耳を傷めないようご注意ください。
- ・この音量設定は中継器モードとは別です。ここでの調整は中継器モード時の音量に反映されません。

通話する

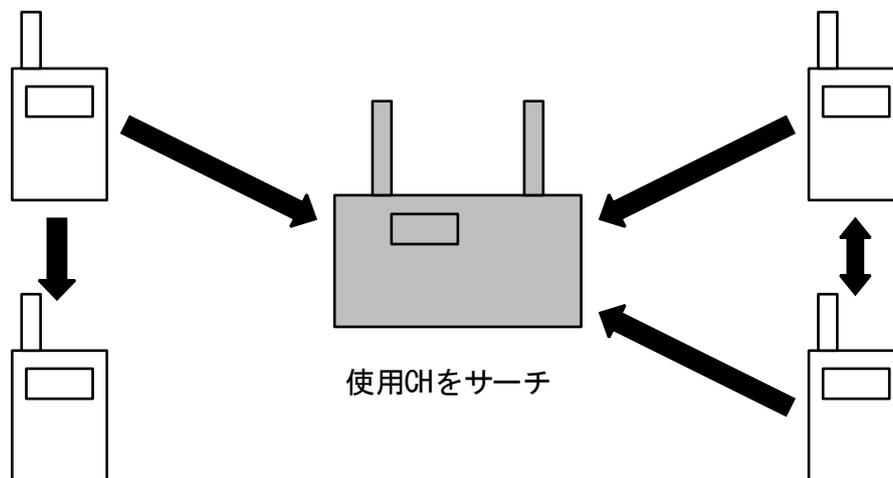
信号を受信するとそのチャンネルでスキャンが止まります。

ディスプレイのが点灯しスピーカーから相手の声が聞こえます。相手の送信が終わって5秒以内に別の信号を受信しないとスキャンを再開します。この待機時間はセットモードで変更できます。

- ・メイン側チャンネルで送信するときは、通常どおり[PTT]キーを押しながらマイクに向かって話します。
 - ・サブ側チャンネルで送信するときは[PTT]キーを短い間隔で2度押しして、2度目で[PTT]キーを押しながらマイクに向かって話します。送信中はディスプレイに送が点灯します。
- いずれも PTT キーを離すと受信に戻り、設定時間（初期値約5秒）が過ぎるとスキャンを再開します。

⑧最適チャンネルサーチ

混信などを避けるため、せっかく設定したトランシーバーのチャンネルをたびたび変えるのは面倒です。この機能は全ての特小無線チャンネルを長時間自動でスキャン（サーチ）して、その CH の使用頻度を表示するものです。前もってどの CH が一番空いているか調べておけば、特に中継システムのように設定項目と台数が多い環境で、余計な設定変更の手間が省けます。



サーチする

通話モードを最適チャンネルサーチ（モード8）に切り替えるか、モード8で AC アダプターを挿して起動すると自動的にチャンネルが0.5秒ごとに切り替わり、サーチを始めます。全47CHを40秒弱で一周します。

使用頻度を確認する

- ・[PTT]キーを3秒以上押し続けるとサーチを停止します。サーチ停止中に[SET]キーを押しながら[▽]または[△]キーを押すとチャンネルが変わり、CH番号の右にサーチ中に信号を受信した回数を表示します。**回数表示が少ない＝混信が少ないチャンネル**です。最大のカウン表示数は250で、それ以上は増えません。0に戻って再カウントすることはありません。
- ・PTTを3秒長押しするとサーチを再開できますが、前回の結果は初期化されます。記録は残らないのでメモを取るなどしてください。

【参考】

使用場所の営業日と営業時間に合わせて、なるべく多くの回数、なるべく長い時間をかけてサーチします。

- ・通話する人が一番多く居るエリア、通話したいエリアの中央、中継器を設置する場所など、一番無線システムを実用する場所に本機を置いてサーチするのが基本です。特小無線は微弱電波なので少し場所が変わるだけで混信状態が変わるためです。
- ・通話エリア内に、離れた複数の多用場所（厨房とホール、レジとバックヤード…）があるときは全部の場所をサーチしてください。片側のエリアだけが混信を多く受けることがないか、確かめるためです。
- ・周囲に特定トランシーバーを使いそうな場所（スーパーや量販チェーンなど中規模店舗、飲食店、クリニック、ヘアサロン、ケータインショップ、工事現場…）があれば、それらの営業時間、作業時間に合わせてサーチします。時間帯を分けて複数回サーチすればさらに効果的です。

【ご注意】

- ・窓際や通話エリア内で一番見通しの良い場所に置くと、遠くからの電波を拾いやすくなります。実用エリア内のサーチではカウント数が低くても、目安として「ここは使っている可能性が高いな…」と判断できるので、他にも空いたCHがあればそちらを選ぶ方が混信を受ける可能性が低くなります。
- ・本機能はあくまで目安としてお使いいただくものです。たまたまサーチした日は近所のユーザーの定休日だ

った、その日だけ近くで工事があった、というようなことは良くあるため、サーチによる空きチャンネル判定の精度は保証できません。

- ・使用頻度が高いと判定されたチャンネルの上下のチャンネルは、使用頻度が「0」でも実用を始めると混信しやすい可能性があります。
(例：L05に使用頻度が高い数値が出たら、L04、L06の頻度が低くても避ける。)
- ・チャンネル「L01」「b01」「L10」「b12」はメーカーを問わず初期値のチャンネルに設定されがちです。このため、このまま使うユーザーが非常に多いことから、これらのチャンネルはサーチの結果にかかわらず避けておくことをおすすめします。
- ・最適チャンネルサーチ中はバッテリーセーブが動作しません。オプションのバッテリーパックご使用の際はバッテリーの消耗にご注意ください。

●その他機能について

①緊急通報

本機を簡易的な緊急通報機器として使用する機能です。トランシーバーとして使用中、アラーム音を鳴らして相手に緊急を通報します。通話モードの交互通話(モード1)、半複信中継子機(モード5)、デュアルオペレーション(モード7)でお使いになれます。デュアルオペレーションでは常にメイン側のチャンネルに発報します。

緊急通報を有効にする

FUNCキーを押したままSETキーを何度か押し、SEt-bt項目にします。(セットモード項目、SETキー割り当て)初期状態の表示はACH SET-btです。△▽キーを何度か押ししてEGにして、PTTキーを押して確定します。詳細内容は別紙「DJ-P113Rセットモード詳細説明書」をご参照ください。

緊急通報を発報する

- ・[SET]キーを3秒以上押し続けると「EmG-on」が表示されピロピロ…と緊急アラーム音を10秒間送信します。信号を受信した相手機もこのアラーム音が鳴ります。
- ・拡張セットモードの「緊急通報鳴動時間」を変更することでアラーム音の時間を10~60秒に変更することができます。また、セットモードの「サウンド」設定を「Gdc」「ALL」にして操作音をガイダンス音声にした場合は緊急通報音が「異常が発生しました」というガイダンス音声になります。
- ・途中でアラーム音を止めるときは[PTT]キーを押します。

②チャンネルスキャン

自動的に受信チャンネルを切り替えて信号を探す機能です。信号を見つけるとスキャンが止まり、信号がなくなると再開します。本機能は通話モードの交互通話(モード1)、半複信中継子機(モード5)でお使いになれます。(それぞれのモードで使えるチャンネル範囲だけをスキャンします。)

チャンネルが空いているエリアでは別の特小ユーザーが近くにいるかどうか、混み合っているエリアでは空いたチャンネルを素早く探すのにお使いください。

チャンネルスキャンを有効にする

FUNCキーを押したままSETキーを何度か押し、SEt-bt項目にします。(セットモード項目、SETキー割り当て)初期状態の表示はACH SET-btです。△▽キーを何度か押しして「Scn」にして、PTTキーを押して確定します。詳細は別紙「DJ-P113Rセットモード詳細説明書」をご参照ください。

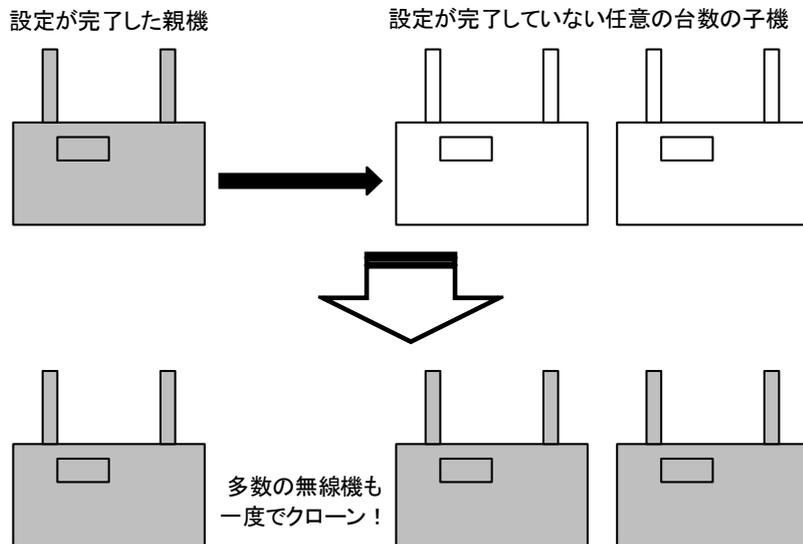
チャンネルスキャンを開始/停止する

[SET]キーを3秒以上押し続けるとスキャンが始まりチャンネルが自動的に切り替わります。信号を見つけるとスキャンは停止して受信を始め、信号がなくなると自動的にスキャンを再開します。スキャンを停止するときは[PTT]キーを押します。(注：受信時間を設定する「タイムスキャン」は採用していません。)

注)・スキャン中はバッテリーセーブが動作しません。オプションのバッテリーパックで運用時に多用すると電池の減りが早くなります。

③エアクローン

設定済みの DJ-P113R (以下、親機) から他の DJ-P113R (以下、子機) に、無線で親機の設定内容を送って、任意の台数の子機を一度に同じ設定に (クローン) することができます。複数の DJ-P113R を使い始めるときや、混信などで設定を変更するときにとっても便利です。
また、誤操作で設定が変わり通話できなくなった個体は、正しく動いている個体を親機にしてエアクローンしてください。手動で操作する手間が省け、一番簡単で正確に復元できます。



1. 親機を準備する

エアクローン用の親機を 1 台、説明書に従って手動で実用状態に設定します。

2. 通信環境を確認する

親機も子機もなるべく近くに集めて強い電波でエアクローンできるようにします。

以下のような場所では設定内容が正しくクローンされない恐れがあるので避けてください。

- ・近くで誰かが通話している・高所、窓際や開いた窓がある等、通信には良い環境 (混信を拾いやすい)
- ・トランシーバーで雑音がしばしば聞こえる、等

3. エアクローンモードにする

この操作を親機とすべての子機に行います。台数が多いときは分けて操作してください。

- ・ AC アダプターを抜き、電源を切ります。
- ・ [SET] キーと [PTT] キーを押したまま AC アダプターを接続して電源を入れ、そのまま離さずに約 7 秒間押し続けます。ディスプレイに「rdy AirCLn」表示が点滅し、「ピピピピピ」という音が鳴ります。

4. 設定情報を送信する

- ・ 親機の [PTT] キーを 3 秒間押し続けると「ピピ」という音が鳴り、「run AirCLn」の表示が点滅します。点滅が始まったら [PTT] キーを離します。
- ・ クローンが始まり、子機が親機からの設定情報を受信すると「ピピ」という音が鳴り、「AirCLn」と進捗状況を知らせる「00」の表示が点灯します。データ転送が進むにつれ数字が増え、「08」を表示すると完了で、ディスプレイに「ooo AirCLn」が表示され、「ブルル」音を鳴らしてから自動で再起動します。

5. 子機をチェックする

再起動後、子機は親機と同じチャンネルになり、簡易キーロックがかかります。親機と通話するか、簡易キーロックを解除して、設定内容を確認してください。確認が終わったら電源を切るか、実用してください。

以上

アルインコ (株) 電子事業部

3 者同時の通話エリアと制限について

注意 必ず初めにお読みください。

- ・このモードはユーザーが3人必要です。2名で通話するときは2者間同時通話モードをお使いください。(2名で通話できるときもありますが、条件や制限があるため動作保証していません。)
- ・通話中、親機が通話グループを抜けると子機①・子機②の通話も途切れます。途切れると困るときは親機(最初に送信ボタンを押した人)を送信状態のままにしてください。
- ・4名以上のグループで使用者が入れ替わる場合と、受信だけするユーザーについても制限があります。詳しくは後述します。

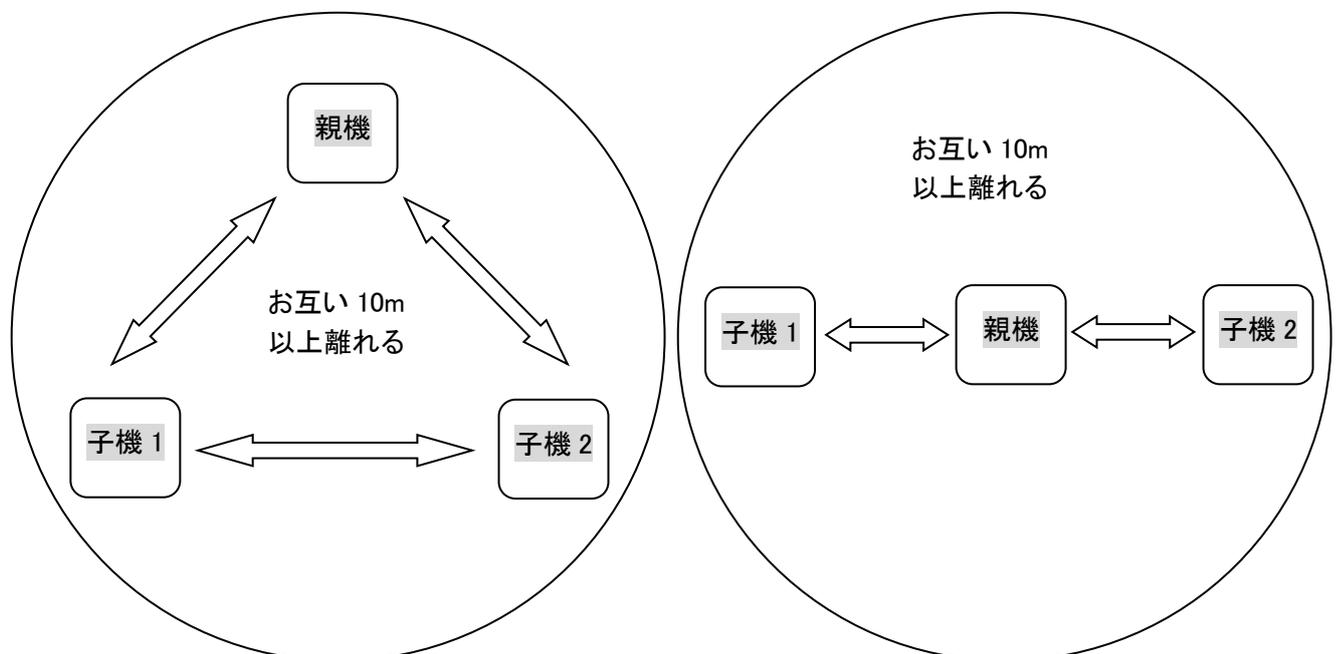
3 者同時通話の通信範囲 【重要:使用者全員でお読みください。間違っ使用と通話ができなくなります。】

初期状態の3者同時連続通話では、屋外の障害物が無い場所で親機-子機間で最長300m程度が通信範囲となります。位置関係が変わると極端に通信範囲が狭くなったり、通信できなくなったりしますが故障ではありません。正常に通話できる位置関係になると元に戻ります。セットモードでハイパワー設定にすると3分に1回、2秒間の自動送信停止(自動復帰します)をするタイムアウト制限が付きますが、通話エリアは2割程度広がります。いったん通信が確立していれば、親機がタイムアウトしても2秒後に自動復帰します。(マッチングのやり直しは不要)

◇正常に通話できる状態◇

- ① お互いに10m以上の間隔で離れて、通信可能エリア(円)の内側で通話する。移動するときもお互いの間隔を取ることに留意する。親機が通話可能エリアから出たり、送信を止めたりすると全員の通話が途切れる。

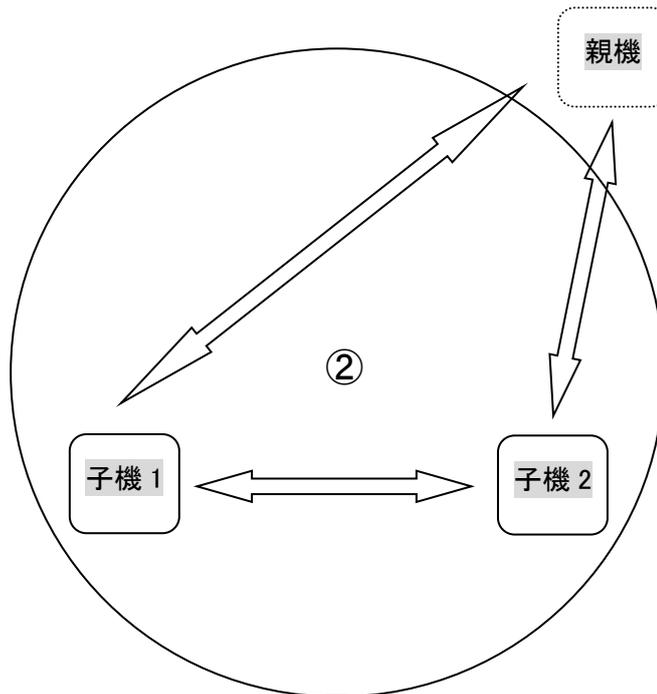
【最適な位置関係】



◆3 者間同時通話ができなくなる位置関係◆

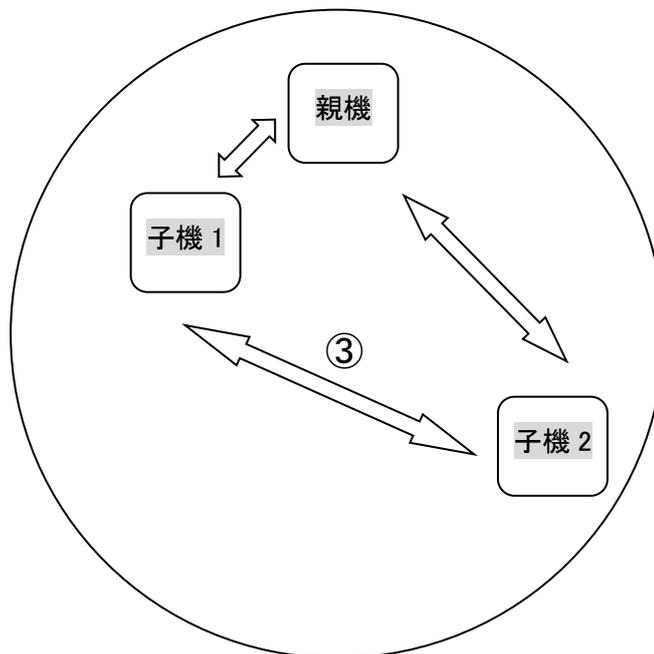
① 親機が通話圏内から出る。

全員の通話が途絶えます。(子機が圏外になるとその子機と通話できなくなります。)



② 1人が極端(10m以下)にほかの人に近づく。

遠くにいる人(ここでは子機2)の通話が途切れやすくなります。



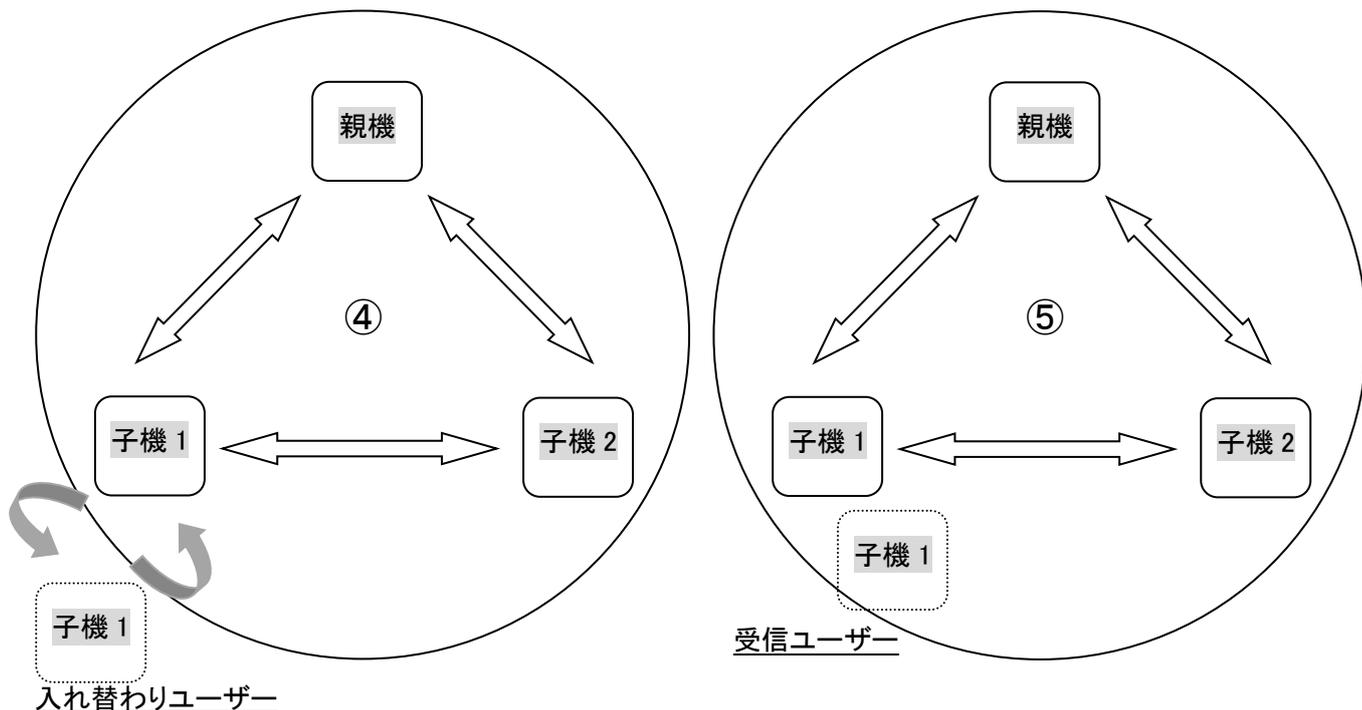
■3 者間同時通話での子機の入替わり(次のページの図④を参照)■

子機 1 を例とします。通話中の子機 1 が PTT を押して送信を止めます。次に子機 1' が PTT を押して送信を始めると元の状態で 3 者同時通話に戻ります。全員の通話圏内であれば子機 1 と子機 1' は同じ場所にいなくても構いません。正常に通話できるお互いの間隔だけ維持してください。子機 1 が停波中も、親機と子機 2 の通話は途切れません。

親機が入替わるときは全員、初めからマッチング操作をしてください。

■受信専用ユーザー(次のページの図⑤を参照)■

チャンネルグループさえ合わせれば人数に制限なく3者間同時通話の受信ができます。但し実用的に受信するには、最寄りの通話ユーザーとの位置関係をなるべく変えないでください。受信だけなら10m以上離れる必要はありません。

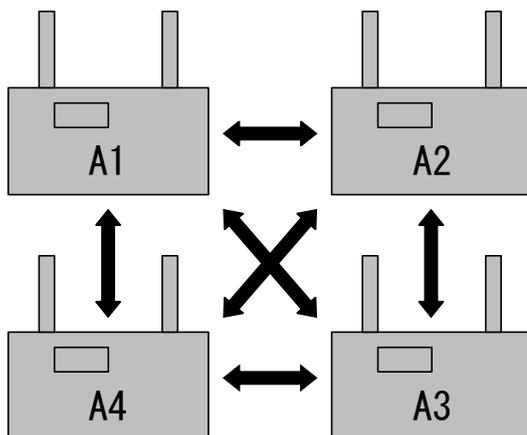


4者同時の通話エリアと制限について

本機はコントローラーを使用せずに4者間の同時通話ができます。初期設定はタイムアウト制限がない連続通話です。

注意 必ず初めにお読みください。

- ・このモードは必ずユーザーが4人必要です。それ以下の時は3者、2者間同時通話設定でお使いください。4者通話設定のまま2人、3人で通話することはできません。
- ・1台間隔で、聞こえる声が少し小さくなりますが異常ではありません。改善方法はありません。(例：A1とA3間、A2とA4間の声は、他より小さく聞こえます。)
- ・通話中、誰かが一人でも通話グループを抜けると別の人の通話も途切れます。途切れると困るときは無線機を送信状態のままにしておきます。
- ・5名以上のグループで使用者が入れ替わる場合と、受信だけするユーザーについても制限があります。詳しくは後述します。



Aグループで4者同時通話した際の概要図

通話音量確認

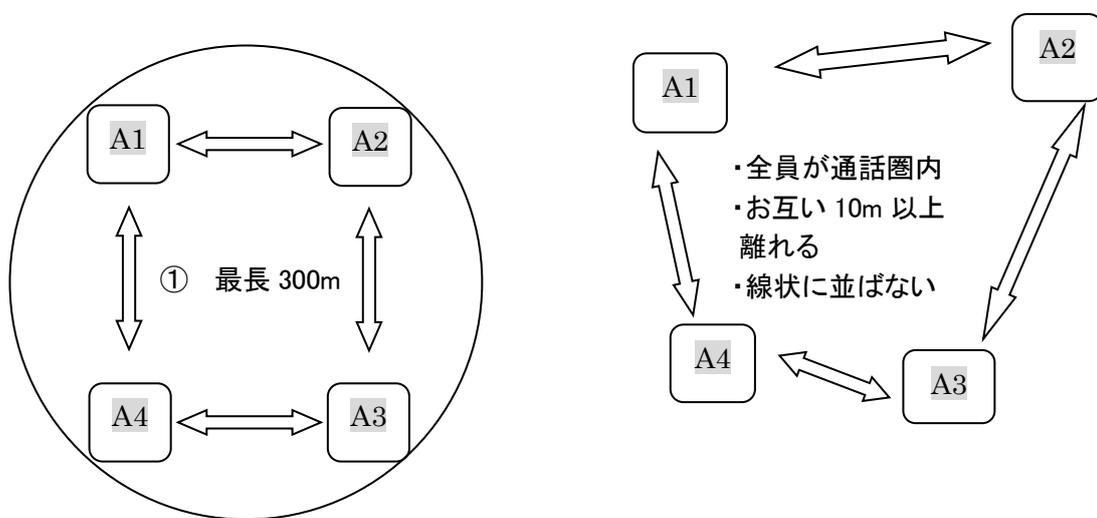
4 者同時の場合、前述のように通話相手によって音量が変わります。通話相手によって音量にどの程度の差があるか、それに合わせて音量を設定したか、等を全員で確認してからお使いください。

4 者同時通話の通信範囲 **【重要: 使用者全員でお読みください。間違っ使用と通話ができなくなります。】**

初期状態の4者同時連続通話では、屋外の障害物が無い場所で最長300m四方間隔程度が通信範囲となります。位置関係が変わると極端に通信範囲が狭くなったり、通信できなくなったりしますが故障ではありません。正常に通話できる位置関係になると元に戻ります。セットモードでハイパワー設定にすると3分に1回、2秒間の自動送信停止(自動復帰します)をするタイムアウト制限が付きますが、通話エリアは2割程度広がります。

◇正常に通話できる状態◇

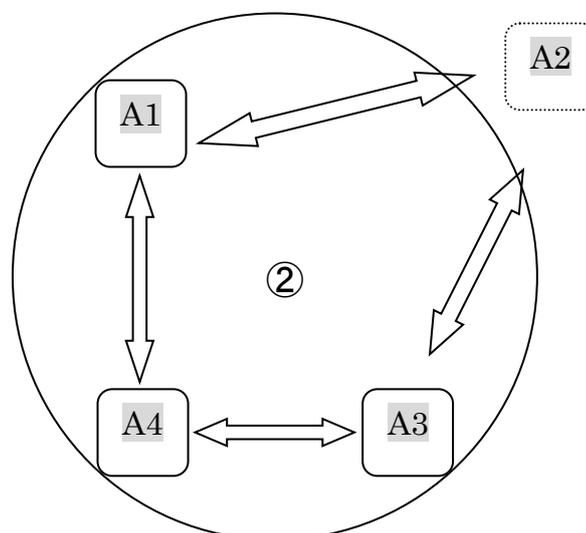
- ① お互いに10m以上の間隔で離れて、通信可能エリア(円)の内側で通話する。移動するときもお互いの間隔を取ることに留意する。通話エリア内であっても線状には並ばない。一人でも通話可能エリアから出たり、通話グループを抜けたりする(送信を止める)と4者間同時通話は終了する。



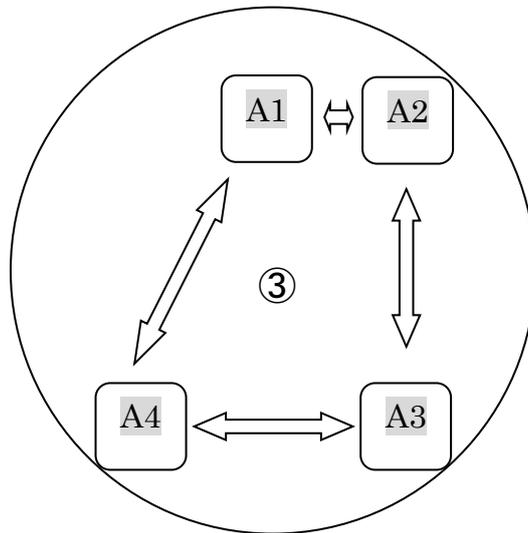
※ 使用者の位置が入れ替わる前後は一時的に次ページの③の状態になり通話が途絶え、声が大きく(小さく)聞こえる相手も変わります。

◆4者間同時通話ができなくなる位置関係◆

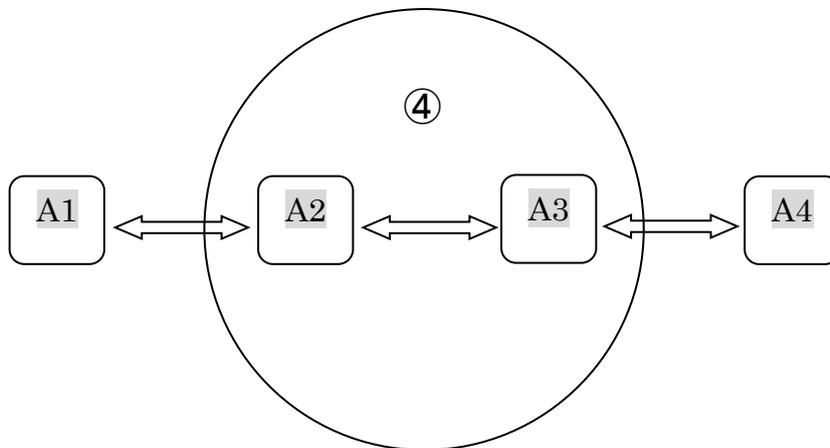
- ② 1人が通話圏内から出る。
③ 1人が極端(10m以下)にほかの人に近づく。
④ 線状に並ぶ。



② の時: A3-A4 間は 2 者同時通話、受信音声小さくなる。A1 は A3-A4 間の受信だけ可能、A2 は通話不能。



③ の時: A1-A2、A3-A4 間 2 つのグループの 2 者同時通話になり、全員の受信音声小さくなる。



④ の時: A1-A2-A3、A2-A3-A4 間 2 つのグループの 3 者同時通話になり、全員の受信音声小さくなる。

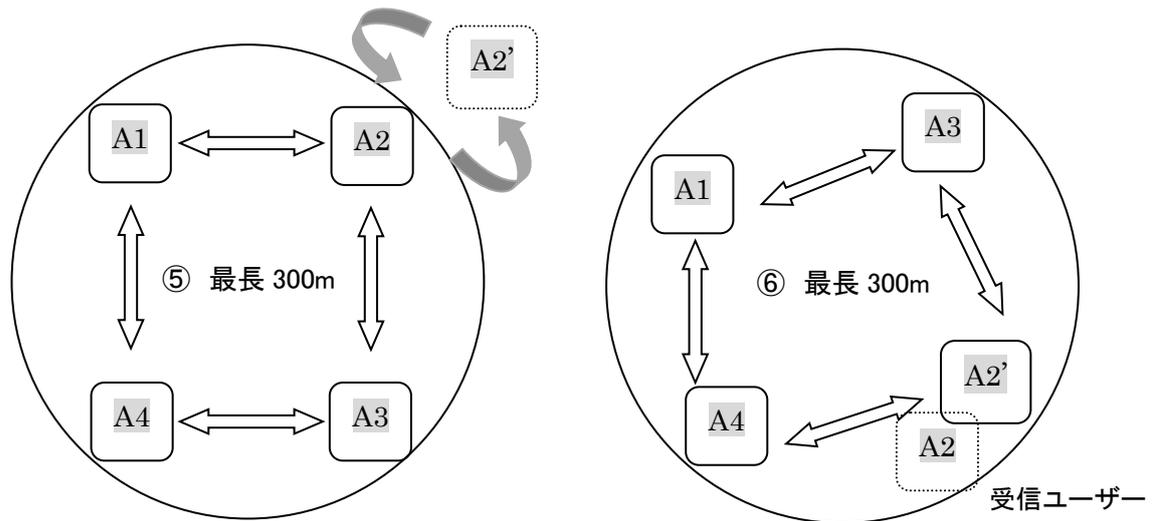
■4 者間同時通話での使用者の入れ替わり■

- 注意** ・任意の人と変わることはできません。交代予定があるユーザーは同じ無線機IDを事前に登録しておく必要があります。この例ではユーザー2番が交代します。交代予定のユーザーは全員、無線機IDを2にしておきます。
- ・IDは必ず1, 2, 3, 4が揃わないと通話が成立しません。1, 2, 2, 3のような組み合わせはお使いになりません。

⑤ まず A2 が送信を停止します。A2 が停波する前後は一時的に通話が途絶え、声が大きく(小さく)聞こえる相手も変わります。A2' が送信を始めると元の状態で 4 者同時通話に戻ります。交代するとき、必ずしも A2 と A2' は同じ場所にいなくても構いません。他のユーザーと正常に通話できる位置関係だけ維持してください。但し位置によっては声が大きく(小さく)聞こえる相手は変わります。

(次ページの図を参照)

入れ替わりユーザー



■受信専用ユーザー■

- ③ チャンネルグループさえ合わせれば人数に制限なく4者間同時通話の受信ができます。但し実用的に受信するには、最寄りの通話ユーザーの無線機と同じID番号を登録して、その人との位置関係をなるべく変えないでください。受信だけなら10m以上離れる必要はありません。位置関係が変わると前述のような受信障害が起こります。

アルインコ株式会社 電子事業部

◆◆◆ 安全上のご注意 ◆◆◆

安全上のご注意

- ◎ 本機を正しく安全にお使いいただくため、「安全上のご注意」をご使用前にお読みください。使用者や周囲の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、次の内容をよく理解してから本文をお読みください。

危険	この表示は「人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。
警告	この表示は「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。
注意	この表示は「人が傷害を負う、または物的損害の発生が想定される内容」を示しています。

* 重傷とは、けが、やけど、感電、骨折などの傷害で入院や長期通院をしたり、後遺症が残ったりするものを指します。

* 傷害とは、治療に入院や長期通院の必要がないやけど、けが、感電などを指します。

* 物的損害とは、家屋、財産、家畜及びペットなどにかかわる拡大損害を指します。

免責事項について

● 天災や人災及び弊社の責任以外の火災、本機の違法な使用、お客様または第三者が取扱説明書とはことなる使用方法で本機を使用することにより生じた損害につきましては、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、弊社は一切責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

● 本機の故障、誤動作、不具合、または停電などの外部要因にて通信などの機会を失ったために生じた純粋経済損害、また人命救助などを目的とした通信に本機を使用し通信の途絶、故障や誤動作、電池の消耗などにより人命に関わる事態が生じても弊社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

● 弊社が関与していない接続機器との組み合わせによる誤動作などから生じた損害は、一切の責任を負いません。

■ 共通(本体/ブラケット/ACアダプター/バッテリーパック)

△ 危険

- ◎ 引火性ガスが発生する場所では使用しないでください。
爆発、火災、感電、故障の原因になります。本機は防爆仕様ではありません。

△ 警告

- ◎ 雷鳴が聞こえたときには、落雷のおそれがありますので、本体、バッテリーパック、充電器、ACアダプターには触れないでください。
感電の原因になります。
- ◎ 分解、改造しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
- ◎ 次の事項を守らないと、火災、発熱、感電、けが、故障の原因になります。
● 指定以外の機器を充電しないでください。
● 指定以外のACアダプターを接続しないでください。
- ◎ 万一、発煙、異臭、異音などの異常がある場合は、使用しないでください。
継続してお使いになると、火災、感電、故障の原因になります。すぐにバッテリーパックをご使用の場合は電池を、ACアダプターをご使用の場合はACアダプターをACコンセントから抜き煙が出なくなったことを確認してから、お買い上げの販売店、または、弊社サービスセンターにご連絡ください。
- ◎ 小さいお子様やペットの手が届かない場所で使用、保管してください。
感電やけがの原因になります。
- ◎ 電源コードを無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重いものを載せたりしないでください。
電源コードが破損し、火災・感電・やけど・けがの原因になります。

△ 注意

- ◎ 直射日光の当たる場所や炎天下の車内、空調機器の吹き出し口など、異常に温度が高くなる場所には置かないでください。
変形、変色、火災、故障の原因になることがあります。
- ◎ ぐらついた台の上や傾いた所などの不安定な場所、振動の多い場所には置かないでください。
落ちたり、倒れたりして、火災、けが、故障の原因となる場合があります。
- ◎ 清掃するときは、洗剤や有機溶剤（ベンジン、シンナーなど）を絶対に使用しないでください。
柔らかい繊維布で乾拭きをしてください。
ケースが割傷したり、文字が変質したり、塗装がはがれたりする恐れがあります。
また、機体内部に洗剤などが浸透し故障の原因になることがあります。

■ 本体

△ 警告

- ◎ 医療や介護関連、または空港、鉄道、港湾、放送局、中継局など電波を使用する施設での使用については各施設管理者に事前に問い合わせ、承認を得てからご使用ください。
電波障害による機器の誤動作が重大な事故や妨害の原因となります。
- ◎ 指定以外のACアダプターを接続しないでください。
火災、発熱、感電、けが、故障の原因になります。

- ◎ アンテナを持って本機を振り回したり、投げたりしないでください。
けが、故障の原因になります。

△ 注意

- ◎ 付属品および、弊社指定のオプション品以外を使用しないでください。
故障の原因になることがあります。
- ◎ 大きな音量で長時間使用しないでください。
大きな音を連続して聞くと、耳に障害を与える原因となります。
- ◎ アンテナや可動部分を必要以上に曲げたり触ったりしないでください。
無理な力加わり、変形・破損の原因となります。
- ◎ 本機の定格温度を必ず守ってご使用ください。
定格外の温度範囲などで使用した場合、故障の原因となる場合があります。
- ◎ バッテリーパックに半田付けをしたり、端子間を金属類で接続しないでください。
火災、発熱、感電、けが、故障の原因となります。

■ ブラケット

△ 注意

- ◎ 弊社の製品保証には設置（取付けや取外し）にかかる費用は含まれていません。
設置の際、不具合が起こり再度設置に費用が発生しても弊社ではその費用の負担は致しかねます。設置を第三者に委託される場合は、あらかじめご了承ください。

△ 警告

- ◎ 次の事項を守らないと、高所からの本機落下は、重大事故の原因になります。
● 使用開始前は本機・ブラケットの取付けに異常がないか点検してください。
● 定期的なネジにゆるみがないか点検してください。
● コンクリート壁への取付けなど、付属品以外のネジを使用するときは規格や形状に配慮して適切なものをお使いください。
● 天井への設置はおやめください。落下時の危険が大きくなります。
● 本機とブラケットを固定したら、本機を両手で支えしっかりと固定されているか必ずご確認ください。

■ ACアダプター

△ 警告

- ◎ ACアダプターや接続ケーブルにキズがある場合、(芯線の露出、断線など)や、ACコンセントの差し込みがゆるいときは使用しないでください。
火災、感電、故障、破損の原因となります。
- ◎ コード類を加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。また、コード類の上には重いものを載せないでください。
火災、感電、故障の原因になります。

- ◎ めれた手で電源プラグに絶対に触れないでください。
感電の原因になります。

- ◎ ACアダプターを抜き差しするときは、電源コードを引っ張らないでください。
火災、感電、やけどの原因となります。
- ◎ 指定以外の機器にACアダプターを接続しないでください。
火災、発熱、感電、けが、故障の原因になります。

△ 注意

- ◎ 次の事項を守らないと、火災、液漏れ、発熱、感電、故障の原因になります。
● 0℃～+45℃以外の環境で使用しないでください。
● 湿気やホコリの多い場所、風通しの悪い場所で使用しないでください。
● 接続機器を使用しない場合、ACアダプターをコンセントから抜いてください。
● 指定以外の電圧で使用しないでください。
● ACアダプターをタコ足配線状態で接続して使用しないでください。

■ バッテリーパック

△ 危険

- ◎ 火やストーブのそば、車内や炎天下など、高温になる場所での使用、充電、放置は絶対にしないでください。
バッテリーの性能や寿命が低下、保護回路が動作して充電できなくなったり、保護回路が破損したりして破裂、発煙、発火や火災、やけどの原因になります。
充電は0℃～+45℃で行ってください。これ以外の温度では十分に充電されなかったり、バッテリーの性能を劣化させる原因や運用時間が極端に短くなる場合があります。

△ 警告

- ◎ 指定の充電時間を経過しても充電を完了しないときは、直ちに充電を中止してください。
充電をつづけると、発煙や発火を起こす危険性があります。
- ◎ コンクリートなどの固い床に落としたり、強い衝撃を与えたり、投げ付けたりしないでください。
外観上、ひび割れや破損がない場合でも、内部で破損している場合があり、その状態で使用をつづけると、破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。
- ◎ 購入時に比べ運用時間が極端に短くなったとき、バッテリーは寿命です。
使用をつづけると、発煙や発火の原因となります。
- ◎ 使用中や充電中に、いつもより発熱するなど異常と感じたときは、使用を中止してください。
使用を続けると、バッテリーの破裂、発熱、故障の原因となります。
- ◎ 満充電になった直後に再充電をしないでください。
繰り返し行うと過充電となり、バッテリーの破裂、発熱、劣化の原因となります。

⚠ 注意

- ◎ 次の注意事項を守らないと、破裂、発熱、サビ、性能や寿命の低下の原因になることがあります。
 - 火中に投入したり、加熱したりしないでください。
 - 水や海水につけたり、ぬらしたりしないでください。
 - 改造、分解をしないでください。
 - 落下等の強い衝撃を与えないでください。
 - 端子接点部をショートさせないでください。
- ◎ 次の注意事項を守らないと、破裂、発熱、サビ、性能や寿命の低下の原因になることがあります。
 - バッテリーを満充電にした状態、または完全に使い切った状態で長期間放置しないでください。長期間バッテリーを保管する場合は、バッテリーを完全に使い切った状態から2時間程度充電した後、保管してください。
 - 本機を使用しないときは、必ず電源を切ってください。
- ◎ バッテリーパックは出荷時、完全には充電されていません。
 - 充電中にAC電源が落ちるとバックアップ運用時間は短くなります。

バッテリーパックの特性と寿命

- ◎ バッテリーパックは消耗品です。いつもより発熱しているなどバッテリーパックに異常があると思われるときは、使用を中止してください。
- ◎ 使用せずに保管している状態でも、劣化が進行します。劣化がはじまると、満充電状態からでも運用時間が短くなります。
- ◎ 劣化したバッテリーパックは発火や火災の原因となることがありますので、使用しないでください。
- ◎ 充電が完了しても運用時間が極端に短くなったときは寿命です。無線機の性能を十分に活用するためにも、3年を目安に長くても5年以内の交換をおすすめします。

電磁ノイズ

インバーター回路を内蔵している電子機器およびハイブリッドカー、電気自動車の車内や周辺では電磁ノイズの影響を受けて、正常に動作できないことがあります。

◎インバーターを搭載する代表的な機器

- LED照明機器 ● 電磁調理器 ● 給湯器 ● 自動車の電子機器
- 太陽光発電装置

アフターサービス

◎ 保証と保証書

修理やメンテナンスなど、保証の詳細は販売店とおお客様の間の契約が優先されますので、ご購入時によくご確認ください。弊社の製品保証の内容は弊社発行の保証書に記載されています。保証書には購入店名、購入日の記入（または専用ステッカー貼付けなど）と、記載の製造番号に間違いがないかをお確かめの上、本書と一緒に大切に保管してください。

記載がないときは販売店発行のレシート、納品書など購入店と購入日が証明できる書類と一緒に保管してください。購入店と購入日が証明できない場合は製品保証が無効となりますのでご注意ください。

◎ 保証期間が過ぎたら

お買い上げいただいた販売店または弊社サービス窓口へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合には、お客様のご要望により有償で修理いたします。アフターサービスや製品に関するよくあるご質問は「アルインコ 電子FAQ」をキーワードにネット検索してください。ご不明な点がございましたら、お買い上げいただいた販売店または弊社サービス窓口へご相談ください。

◎ 製造終了製品に対する保守年限に関して

弊社では製造終了後も下記の期間、製品をお使い頂けるように最低限必要な補修部品を常備しています。ただし、不測・不可抗力の事態により在庫部品に異常が発生したような場合はアフターサービスをご提供できなくなることもありますので、あらかじめご了承ください。

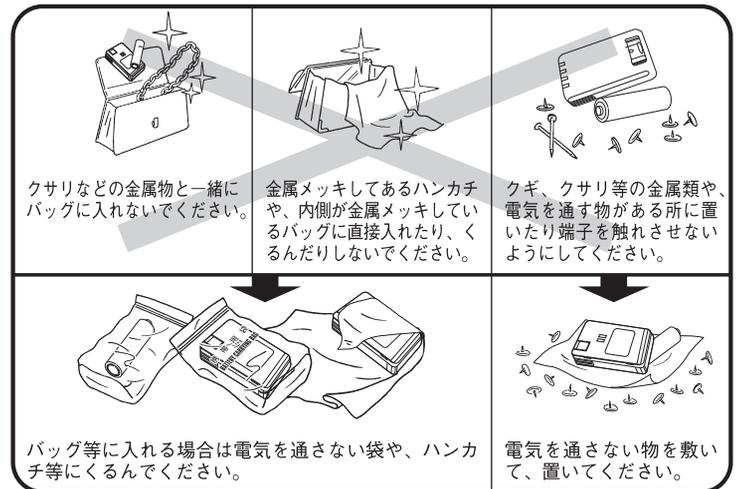
補修部品の保有期間は、生産終了後5年です。

◎ 注意事項

- 改造、分解されたり銘板やラベル類が剥がされた製品は、修理をお断りすることがあります。
- 修理見積や保険用の証明書の発行は、一部有償です。
- 本機には明確に定められた製品寿命はありません。
- 樹脂成型時に細いラインが入ることがありますが、異常ではありません。
- 印字について美観上の問題が無い範囲でわずかなムラがあります。
- 使用条件によって端子部が変色することがありますが、異常ではありません。
- 静電気が溜まりやすい場所や服装で別売のイヤホンマイクを装着するとき、耳に静電気ショックを感じる場合があります。ドアノブなどに触れて感じるようなショックと同じで、漏電のような異常ではありません。

バッテリーパックの保存とメンテナンス

- ◎ バッテリーパックを持ち運び際には、端子を絶対にショートさせないよう注意してください。大電流が流れて発熱し、やけどや火事になる危険があります。



- ◎ 電池類を保存するときは必ず無線機から出してください。無線機は電源オフでも待機電流を消費するものがあり、過放電の原因となります。保存には-20℃～+45℃の範囲で湿度が低く乾燥した場所を選んでください。範囲外の温度や極端に湿度の高い場所では、漏液や金属部のサビの原因となります。
- ◎ 乾燥した冷所に保存してください。放電状態で保存することは絶対に避けてください。

充電式電池のリサイクル



- 本機の別売バッテリーパックは充電式電池です。リサイクル・交換などは販売店にご相談いただくか、本書の「アフターサービスについて」をご参照のうえ弊社サービスセンターにご相談ください。
- 廃棄の際はお住まいの地域のリチウムポリマー、リウムイオン電池機器の廃棄処理ルールに従ってください。

電波法

- ◎ 本機は電波法に基づいて、技術基準適合証明（工事設計認証）を受けた製品です。本機には右の数字や記号が印字されています。分解しないでください。改造して使うと罰せられます。



- ◎ 本機に貼付されたラベル類は重要です。次のことにご注意ください。
 - 機種名、数字や記号が書かれたラベル類は一切絶対に剥がしたり、他のシールなどで隠したり、貼り替えたりしないでください。技術適合の基準から外れ、違法機器とみなされることがあります。
 - ラベル類が隠れるように他のシールやステッカーが貼り付けられていたら、修理の際に弊社サービスセンターで破棄させていただきます。ラベル類の印字が薄れてきた場合はお買い上げいただいた販売店が弊社サービスセンターにご相談ください。
 - ラベル類が意図的に手を加えられていると判断した場合、修理をお断りすることがございます。不法無線局開設の補助に該当するためですのでご了承ください。
- ◎ 他人の通信を妨害したり、通話の内容を無断で漏らしたり、勝手に利用したりすることは電波法で禁じられていて、違反すると罰せられます。
- ◎ 使用できるのは、日本国内に限られています。
- ◎ 心臓ペースメーカーを使用している人の近くで、本機を使用しないでください。電磁妨害により機器が誤作動すると、人命にかかわります。

別売バッテリーパックの運用について

- ◎ DJ-P113Riに使用するオプションのEBP-60iは、停電時の非常用電源です。
 - 過充電、過放電しないように設計されていますが使用状況にかかわらず劣化はします。非常時の運用が正しくできるよう3年をめぐりに新品に交換してください。5年以上使うと内部ショートによる事故の可能性が高くなります。
 - 本機を保管するときはACアダプターとEBP-60を本体から外して保管してください。内蔵したままの保管は電池劣化の原因となります。
 - 万一EBP-60iにふくらみ、液がにじみ出たような痕跡が見られたら、すぐに使用をやめて廃棄、新品に交換してください。